

写真で見る

日本免疫学会

50

年

*50th Anniversary of The Japan Society for Immunology*

特定非営利活動法人

日本免疫学会

# 「日本免疫学会 50 周年に寄せて」

第 22 代理事長 小安重夫



▲小安重夫

1971 年 11 月 30 日に第 1 回日本免疫学会総会・学術集会が開催されてから今年で 50 年、半世紀になります。これを記念して、ここに「写真で見る日本免疫学会 50 年」を刊行することになりました。過去の記録を拝見しますと、日本免疫学会の設立以前には免疫化学研究会と免疫生物学会がありました。当時の抄録を拝見すると、昆虫の免疫（自然免疫ですね）、イモリの免疫、ニワトリの免疫の研究成果がマウスの研究成果と共に報告されています。胸腺やファブリシウス嚢の研究も頻繁に出てきます。今読んでも免疫現象の不思議さと面白さが伝わってきます。

世界的には、18 世紀終わりに免疫学という学問を開拓した研究者の中には北里柴三郎博士とそれに連なる日本人研究者がいました。それ以来、免疫学における日本人研究者の、そして日本免疫学会の貢献はとても大きいものです。IgE の発見、抗原受容体の再構成分子機構の解明、サイトカイン遺伝子のクローニングなど、沢山のエポックメイキングな研究成果が日本人研究者によって発信されてきました。

1969 年に設立された国際免疫学会連合 (IUIS) が米国ワシントン D.C. で最初の国際会議を開催したのも 50 年前の 1971 年でした。それ以来 3 年ごとに計 17 回の国際会議が開催されていますが、日本免疫学会は第 5 回 (1983 年、京都) と第 14 回 (2010 年、神戸) の 2 回にわたって国際会議を主催しました。京都の国際会議では T 細胞受容体の cDNA クローニングが報告され、大きな興奮を巻き起こしたことを思い出します。また、IUIS 第 9 代の会長を多田富雄博士が務められました。ここにも日本免疫学会の世界における立ち位置を見ることができると思います。

本書では、日本免疫学会のこれまでの歴史をたどることを目指しました。総会・学術集会を中心に紹介していますが、様々なアウトリーチ活動も取り上げています。歴史の物語に貴重な写真を添えることでこれまでの日本免疫学会の歩みを皆さんと共有したいと願っています。

さて、50 周年の次の半世紀はこれからです。これからも世界の最先端の研究成果を出し続ける日本免疫学会であり続けたいと願うのは私だけではないと思います。これからの日本免疫学会を背負っていくのは現在の会員の皆さん、特に若手会員です。そのためには、次世代を担う若手の免疫研究者が世界を相手に夢を持って戦える環境作りが日本免疫学会の使命ではないでしょうか。次の 50 年も輝き続ける日本免疫学会のため、皆さまとともにさらに前に進んでいきたいと思えます。

最後になりますが、本書の刊行にご尽力いただいた、審良静男博士を筆頭とする発起人の先生方、広報委員会の先生方、そして貴重な記録や写真をご提供いただいた皆様方に心より感謝申し上げます。本書がこれから 50 年の日本免疫学会の活動にも活かされることを願っております。

# 日本免疫学会総会・学術集会の歴史

## 山村雄一会長（大阪大学）時代 1971-1974



▲山村雄一



▲山村雄一

### ▼1971

#### 第1回 日本免疫学会総会

1971年11月30日～12月2日

会長 花岡正男（京都大学）、村松繁（京都大学）

会場 大阪・日生研修所

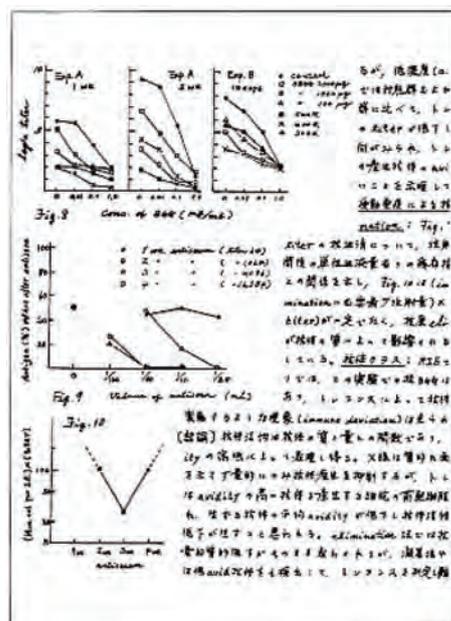
参加者は500名を超え、演題数は64であった。北川正保の提案で発表10分、討論20分とした。1960年代に抗体研究は一区切りがっていたので、T-B細胞の相互作用、後の細胞傷害性T細胞、メモリーT細胞などいわゆる細胞性免疫応答が主要な課題と認識されていた。

**第1回日本免疫学会総会記録**

昭和46年11月30日、12月1、2日 大阪  
世話人 花岡 正男・村松 繁

総論・化学	(1-14)	1
総論	(15-22)	40
細胞能力反応	(23-31)	64
物理	(32-37)	91
液体電気運動	(38-45)	110
細胞表面現象	(47, 48)	137
細胞性免疫	(49-59)	143
感染と免疫	(60-64)	174
第1回日本免疫学会に出席して		189
免疫グロブリンについての用語		213
英文総目録		219

▲第1回日本免疫学会総会記録 表紙



▲第1回日本免疫学会記録・抄録抜粋（ほとんどの演題は手書きだった）。

## ▼ 1972

## 第2回 日本免疫学会総会

1972年12月2日～12月4日

会長 松橋直 (東京大学)、川村明義 (東京大学)

会場 東京大学医科学研究所講堂・国立公衆衛生院講堂・杉野講堂



▲松橋直



▲川村明義

## ▼ 1973

## 第3回 日本免疫学会総会

1973年12月1日～12月3日

会長 天野恒久 (大阪大学)、鳥居光雄 (大阪大学)

会場 日生講堂・日生ホール・日生E教室・阪大講堂



▲鳥居光雄



▲天野恒久

## ▼ 1974

## 第4回 日本免疫学会総会

1973年12月2日～12月4日

会長 武谷健二 (九州大学)、尾上薫 (九州大学)、野本亀久雄 (九州大学)

会場 電気ビル



▲武谷健二



▲九州大学歯学部生化学教室 左から岸本忠三 尾上薫 (1968)



▲九州大学歯学部生化学教室 当時

## 武谷健二会長（九州大学）時代 1975-1978



▲武谷健二

### ▼1975

#### 第5回 日本免疫学会総会

1975年12月11日～12月13日

会長 堀内淑彦（東京大学）、大澤利昭（東京大学）

会場 国立教育会館・久保講堂



▲堀内淑彦



▲大澤利昭

### ▼1976

#### 第6回 日本免疫学会総会

1976年12月6日～12月8日

会長 山村雄一（大阪大学）

会場 大阪商工会議所・大阪コクサイホテル



▲山村雄一、石坂公成



▲山村雄一、岸本忠三、Robert Good

## ▼ 1977

## 第7回 日本免疫学会総会

1977年11月15日～11月17日

会長 相沢幹（北海道大学）、菊地浩吉（札幌医科大学）、板倉克明（旭川医科大学）

会場 北海道厚生年金会館・札幌市教育文化会館



▲相沢幹



▲相沢幹



▲菊地浩吉



▲板倉克明

## ▼ 1978

## 第8回 日本免疫学会総会

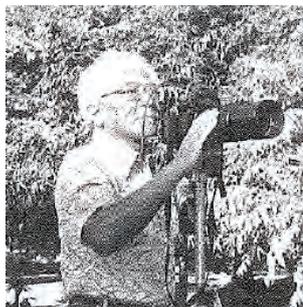
1978年11月27日～11月29日

会長 濱島義博（京都大学）、森川茂（島根医科大学）、白井俊一（京都大学）

会場 京都勤労会館・京都商工会議所



▲濱島義博



▲濱島義博



▲森川茂



▲白井俊一

## 天野恒久会長（大阪大学）時代 1979-1980



▲天野恒久

### ▼1979

#### 第9回 日本免疫学会総会

1979年12月4日～12月6日

会長 斎藤和久（慶應義塾大学）、影山圭三（慶應義塾大学）、渡辺陽之輔（慶應義塾大学）

会場 日本青年館



▲斎藤和久



▲影山圭三



▲渡辺陽之輔

### ▼1980

#### 第10回 日本免疫学会総会

1980年12月4日～12月6日

会長 林秀男（熊本大学）、神原武（熊本大学）、吉永秀（熊本大学）

会場 熊本市市民会館・県医師会館ホール・みゆき会館ホール



▲尾上薫、山村雄一、林秀男



▲神原武

## 山村雄一会長（大阪大学）時代 1981-1984



▲山村雄一

## ▼1981

## 第11回 日本免疫学会総会

1981年12月1日～12月3日

会長 多田富雄（東京大学）、徳永徹（予防衛生研究所）、奥村康（東京大学）

会場 経団連会館



▲多田富雄



▲徳永徹



▲多田富雄、河野陽一、徳久剛史



▲奥村康、多田富雄

## ▼1982

## 第12回 日本免疫学会総会

1982年11月17日～11月19日

会長 橘武彦（東北大学）、京極方久（東北大学）、橋本嘉幸（東北大学）、熊谷勝男（東北大学）

会場 仙台市民会館・仙台市戦災復興記念館



▲橘武彦



▲京極方久



▲橋本嘉幸



▲熊谷勝男



▲NKシンポジウム（免疫学会に先立って橘武彦、熊谷勝男で開催）



▲木曜会（薬学部 橋本嘉幸、医学部 石田名香雄・京極方久、抗研 橘武彦、歯学部 熊谷勝男を中心に行っていた仙台免疫学派の勉強会。1982年当時）

## ▼1983

### 第13回 日本免疫学会総会

1983年12月8日～12月10日

会長 吉田孝人（浜松医科大学）、山下昭（浜松医科大学）

会場 浜松市民会館・浜松市児童会館ホール（展示）

出席者 2000人、演題数約 200題で全演題を口頭とポスターで発表した。



▲吉田孝人



▲山下昭

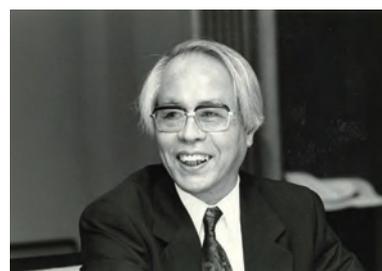
## ▼1984

### 第14回 日本免疫学会総会

1984年12月4日～12月6日

会長 森澤成司（大阪市立大学）、岸本忠三（大阪大学）、濱岡利之（大阪大学）

会場 大阪商工会議所・大阪コクサイホテル



▲森澤成司



▲山村雄一、森澤成司（山村が九州大学医学部医化学教室の教授だったとき、森澤は助手を務めた）



▲濱岡利之、山村雄一、岸本忠三



▲懇親会 山村雄一、岸本忠三

## 多田富雄会長（東京大学）時代 1985-1988



▲多田富雄



▲石坂照子、石坂公成、多田富雄（1987年）



▲多田富雄研究室（1990年頃）（前列左から2人目 浅野善博、後列左から2人目 中山俊憲）



▲谷口維紹、多田富雄、石坂公成（1999年）（前列右から2人目 高柳広、2列目右から2人目 高岡晃教）

### ▼1985

#### 第15回 日本免疫学会総会

1985年12月5日～12月7日

会長 野本亀久雄（九州大学）、笹月健彦（九州大学）、渡邊武（九州大学）

会場 福岡サンパレス



▲懇親会 多田富雄、花岡正男、野本亀久雄



▲懇親会 花岡正男、多田富雄



▲総会

## ▼1986

**第16回 日本免疫学会総会・学術集会**

1985年12月15日～12月17日

学術集会長 谷口克 (千葉大学)

会場 日本都市センター・全共連ビル・全国都市会館



▲谷口克

## ▼1987

**第17回 日本免疫学会総会・学術集会**

1987年11月19日～11月21日

学術集会長 右田俊介 (金沢大学)

会場 金沢市観光会館・石川厚生年金会館・石川県立社会教育センター・石川県社会福祉会館・MROホール



▲右田俊介学術集会長



▲懇親会 左より陸徳源、Michael W Steward、右田俊介、八木康夫



▲右田俊介研究室 (前列左から3人目 右田俊介、後列左から2人目松島綱治)

## ▼1988

**第18回 日本免疫学会総会・学術集会**

1988年12月14日～12月16日

学術集会長 花岡正男 (京都大学)

会場 国立京都国際会館



▲花岡正男学術集会長

花岡正男会長（京都大学）時代 1989-1990



▲花岡正男 (2000 年)



▲花岡正男、淀井淳司



▲選暦のお祝い会 (1986 年)

▼ 1989

第 19 回 日本免疫学会総会・学術集会

1989 年 11 月 14 日～11 月 16 日

学術集会長 菊地浩吉 (札幌医科大学)

会場 北海道厚生年金会館・札幌市教育文化会館



▲菊地浩吉学術集会長



▲学会会場



▲早朝より開始 今井浩三



▲学会前夜会長招宴



▲懇親会鏡開き



▲懇親会鏡開き



▲懇親会



▲懇親会の様子



▲懇親会 竹森利忠、岸本忠三、本庶佑、渡邊武



▲懇親会 山村雄一、林秀男、多田富雄

▼ 1990

第 20 回 日本免疫学会総会・学術集会

1990年 11月 27日～11月 29日

学術集会長 奥村康 (順天堂大学)

会場 順天堂大学



▲奥村康学術集会長



▲奥村康



▲奥村康



▲集合写真



▲奥村康 (多田富雄研 1985年)



▲奥村康、笹月朋成、塚原林太郎、八木田秀雄



▲奥村康、平野隆雄



▲奥村康、小端哲二、中野裕泰

## 岸本忠三会長（大阪大学）時代 1991-1992



▲岸本忠三

▼1991

## 第21回 日本免疫学会総会・学術集会

1991年11月27日～11月29日

学術集会長 尾上薫（熊本大学）

会場 熊本市民会館・熊本市産業文化会館・熊本交通センターホテル・熊本県医師会館



▲第21回日本免疫学会総会・学術集会



▲プログラム編成作業（中央 尾上薫）



▲学会本部（前列左から村松繁、尾上薫）



▲熊本大学医学部免疫研究生化学（尾上研（1982年）前列中央 尾上薫、後列右から2人目 平野俊夫）

▼1992

## 第22回 日本免疫学会総会・学術集会

1992年11月25日～11月27日

学術集会長 岡田秀親（名古屋市立大学）

会場 名古屋国際会議場



▲岡田秀親学術集会長

菊地浩吉会長（札幌医科大学）時代 1993-1994



▲菊地浩吉

▼1993

第23回 日本免疫学会総会・学術集会

1993年11月17日～11月19日

学術集会長 熊谷勝男（東北大学）

会場 仙台国際センター・仙台市民会館



▲熊谷勝男学術集会長



▲ラジオたんぱ



▲仙台国際センター



▲一般演題会場

▼1994

第24回 日本免疫学会総会・学術集会

1994年11月29日～12月1日

学術集会長 村松繁（京都大学）

会場 国立京都国際会館



▲村松繁学術集会長



▲総会



▲懇親会



▲懇親会 集合写真

## 笹月健彦会長（九州大学）時代 1995-1996



▲笹月健彦

### ▼1995

#### 第25回 日本免疫学会総会・学術集会

1995年11月28日～11月30日  
 学術集会会長 笹月健彦（九州大学）  
 会場 アクロス福岡



▲日本免疫学会 25周年記念市民講座（左から渡邊武、笹月健彦、利根川進、一人おいて岸本忠三、多田富雄）

### ▼1996

#### 第26回 日本免疫学会総会・学術集会

第26回 日本免疫学会総会・学術集会  
 1996年11月26日～11月28日  
 学術集会会長 白井俊一（順天堂大学）  
 会場 パシフィコ横浜会議センター



▲白井俊一学術集会会長

## 谷口克会長（千葉大学）時代 1997-1998



▲谷口克

▼1997

## 第27回 日本免疫学会総会・学術集会

1997年10月29日～10月31日

学術集会長 吉木敬（北海道大学）

会場 ホテルロイトン札幌



▲吉木敬学術集会長



▲学術集会長ご挨拶



▲会長招宴

▼1998

## 第28回 日本免疫学会総会・学術集会

1998年12月2日～12月4日

学術集会長 岸本忠三（大阪大学）

会場 神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル

日本免疫学会賞が創設された。



▲岸本忠三学術集会長（1998年）



▲第48回日本アレルギー学会、第28回日本免疫学会、第26回日本臨床免疫学会の3学会合同による学術集会「免疫・アレルギー週間連合学会」を開催した。

## 第1回 日本免疫学会賞

長澤丘司（大阪府立母子保健総合医療センター研究所）

「ケモカイン SDF-1/PBSF の生理的病理的役割に関する研究」



▲長澤丘司

## 本庶佑会長（京都大学）時代 1999-2000



▲本庶佑

## ▼1999

## 第29回 日本免疫学会総会・学術集会

1999年12月1日～12月3日

学術集会長 本庶佑（京都大学）

会場 国立京都国際会館・京都宝ヶ池プリンスホテル



▲本庶佑学術集会長



▲湊長博副会長



▲西川伸一副会長

## 第2回 日本免疫学会賞

田賀哲也（東京医科歯科大学）

「IL-6 ファミリーサイトカイン群に共有される受容体コンポーネント gp130 の機能と信号伝達機構の研究」

三宅健介（佐賀医科大学）

「感染免疫における病原体認識機構の解明」



▲田賀哲也



▲三宅健介

## ▼2000

## 第30回 日本免疫学会総会・学術集会

2000年11月14日～11月16日

学術集会長 菅村和夫（東北大学）

会場 仙台国際センター・宮城県スポーツセンター



▲懇親会 学術集会長挨拶



▲懇親会 乾杯の音頭



▲学術集会直前に開催された日米独免疫会議 in Zao

## 第3回 日本免疫学会賞

松田文彦（Centre National de Genotypage）

「ヒト免疫H鎖可変部領域遺伝子群の構造解析」

高浜洋介（徳島大学）

中山俊憲（千葉大学）

「Tリンパ球の分化機構の研究」



▲松田文彦

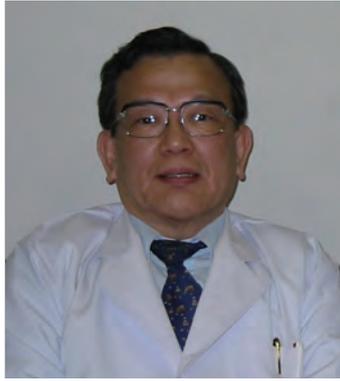


▲高浜洋介



▲中山俊憲

## 濱岡利之会長（大阪大学）時代 2001-2002



▲濱岡利之

## ▼2001

**第31回 日本免疫学会総会・学術集会**

2001年12月11日～12月14日  
 学術集会長 濱岡利之（大阪大学）  
 会場 大阪国際会議場

パーゼル免疫研究所所長であった Fritz Melchers 博士ご夫妻から日本免疫学会に寄せられた寄付金により、国内の大学、研究所で免疫学研究に励んでいる大学院生および研究生が日本免疫学会学術集会に参加して発表する際の国内旅費、参加費の一部を援助する Fritz Melchers Travel Award が創設された。



▲濱岡利之学術集会長



▲Fritz Melchers

**第4回 日本免疫学会賞**

吉村昭彦（九州大学）  
 「サイトカインシグナル制御機構に関する研究」

黒崎知博（関西医科大学）  
 「B細胞レセプターを介するシグナル伝達機構の研究」



▲吉村昭彦



▲黒崎知博

## ▼2002

**第32回 日本免疫学会総会・学術集会**

2002年12月4日～12月6日  
 学術集会長 垣生園子（東海大学）  
 会場 京王プラザホテル



▲垣生園子学術集会長

**第5回 日本免疫学会賞**

生田宏一（京都大学）  
 「IL-7レセプターによるリンパ球抗原受容体遺伝子の組み替え制御」



▲生田宏一

高津聖志会長（東京大学）時代 2003-2004



▲高津聖志

▼2003

第33回 日本免疫学会総会・学術集会

2003年12月8日～12月10日

学術集会長 渡邊武（九州大学）

会場 福岡国際会議場・マリノメッセ福岡



▲学術集会長挨拶



▲会長挨拶



▲シンポジウム  
Stefan Kaufmann



▲シンポジウム (Bernard Malissen)



▲ポスター会場



▲ポスター会場



▲高校生を対象としたセミナー



▲懇親会乾杯の音頭 笹月健彦



▲名誉会員挨拶 Fritz Melchers



▲名誉会員挨拶 菊地浩吉

### 第6回 日本免疫学会賞

福井宣規 (九州大学)

「T細胞の分化・活性化を制御する抗原認識の分子基盤」



▲福井宣規



▲福井宣規

## ▼2004

### 第34回 日本免疫学会総会・学術集会

2004年12月1日～12月3日

学術集会長 小野江和則 (北海道大学)

会場 ロイトン札幌・北海道厚生年金会館



▲小野江和則学術集会長



▲学会看板



▲学会風景



▲学会風景



▲ポスターセッション



▲Melcher's Travel Awardees



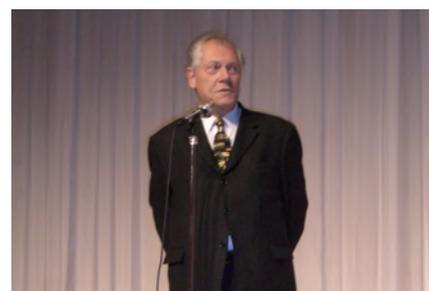
▲会長招宴 学術集会長挨拶



▲会長招宴 会長挨拶



▲会長招宴乾杯の音頭 本庶佑



▲会長招宴 Fritz Melcher



▲会長招宴 森川和雄



▲会長招宴



▲懇親会 大会長挨拶



▲懇親会挨拶 菊地浩吉



▲懇親会



▲懇親会 小野江和則 森川和雄



▲小野江研究室スタッフ

## 第7回 日本免疫学会賞

高井俊行 (東北大学)

「イムノグロブリン様レセプターによる免疫制御機構と免疫疾患に関する研究」

竹田潔 (九州大学)

「遺伝子改変による免疫系シグナルの機能解析」



▲高井俊行



▲竹田潔

## 平野俊夫会長（大阪大学）時代 2005-2006



▲平野俊夫

## ▼2005

## 第35回 日本免疫学会総会・学術集会

2005年12月13日～12月15日

学術集会長 高津聖志（東京大学）

会場 パシフィコ横浜（会議センター・展示ホール）



▲高津聖志学術集会長



▲懇親会 鏡割り

## 第8回 日本免疫学会賞

木梨達雄（関西医科大学）

「インテグリン接着制御による免疫細胞動態調節」

熊ノ郷淳（大阪大学）

「免疫セマフォリン分子による免疫応答制御機能の解析」



▲木梨達雄



▲熊ノ郷淳

## ▼2006

## 第36回 日本免疫学会総会・学術集会

2006年12月11日～12月13日

学術集会長 平野俊夫（大阪大学）

会場 大阪国際会議場



▲学術集会長挨拶



▲シンポジウム



▲シンポジウム 宮坂昌之



▲シンポジウム



▲ワークショップ



▲ポスター会場



▲懇親会受付



▲懇親会 宮坂昌之、William Paul、平野俊夫

## 第9回 日本免疫学会賞

天谷雅行 (慶應義塾大学)

「基礎と臨床にわたる自己免疫疾患研究」



▲天谷雅行



▲日本免疫学会賞受賞式



▲受賞講演

日本免疫学会研究奨励賞が創設された。

## 第1回 日本免疫学会研究奨励賞

小笠原康悦 (国立国際医療センター研究所)

「NK細胞認識機構の研究」

梶島健治 (産業医科大学)

「脂質メディエーターのアレルギー・免疫における新規役割の解明とその臨床応用への試み」

本田賢也 (東京大学)

「IRF転写因子活性化の時空間制御」

安友康二 (徳島大学)

「Tリンパ球の分化・活性化調節機構とその破綻機序に関する研究」

山下政克 (千葉大学)

「クロマチン構造変換によるTh2細胞の分化と機能維持機構」



▲小笠原康悦



▲梶島健治



▲本田賢也



▲安友康二



▲山下政克



▲奨励賞受賞式

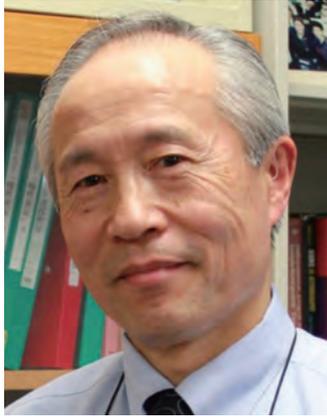


▲奨励賞ポスターセッション



▲奨励賞ポスターセッション

宮坂昌之会長（大阪大学）時代 2007-2008



▲宮坂昌之

▼2007

第37回 日本免疫学会総会・学術集会

2007年11月20日～11月22日

学術集会長 齊藤隆（理化学研究所 RCAI）

会場 グランドプリンスホテル新高輪



▲齊藤隆学術集会長



▲齊藤隆学会長



▲ウェルカムパーティー



▲前列左から 谷口克、本庶佑、齊藤隆、高津聖志、小安重夫



▲シンポジウム



▲ワークショップ (+ 1 minute presentation)



▲ポスターセッション (飛天の間)

### 第 10 回 日本免疫学会賞

樽木俊聡 (秋田大学)  
「樹状細胞による免疫調節ダイナミクス研究」



▲樽木俊聡

### 第 2 回 日本免疫学会研究奨励賞

岡崎拓 (京都大学)  
「免疫抑制受容体 PD-1 による自己免疫疾患発症制御機構の解析」



▲岡崎拓



▲河合太郎



▲堀昌平

河合太郎 (大阪大学)  
「自然免疫によるウイルス認識と活性化機構の解析」

堀昌平 (理化学研究所 RCAI)  
「制御性 T 細胞による優性免疫寛容機構の研究」

山崎晶 (理化学研究所 RCAI)  
「T 細胞抗原受容体を介する分化・活性化の制御機構」

山本雅裕 (大阪大学)  
「生体レベルにおける TLR シグナル伝達機構の解明」



▲山崎晶



▲山本雅裕

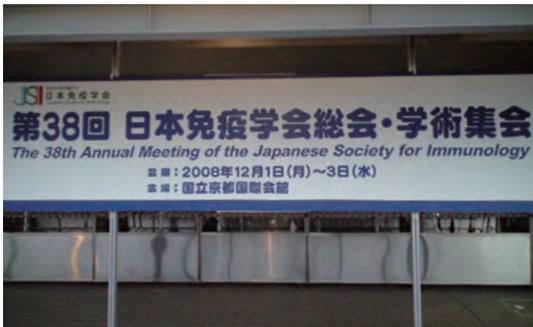
▼2008

第38回 日本免疫学会総会・学会集

2008年12月1日～12月3日  
 学会集会長 稲葉カヨ (京都大学)  
 会場 国立京都国際会館



▲稲葉カヨ学会集会長



▲会場



▲受付



▲シンポジウム 烏山一



▲シンポジウム 熊ノ郷淳



▲シンポジウム 藤田尚志、三宅健介



▲シンポジウム David Segal



▲シンポジウム 湊長博



▲シンポジウム 鍋島陽一



▲シンポジウム 本庶佑



▲シンポジウム 山中伸弥



▲総会 稲葉カヨ学術集会会長挨拶



▲総会 榎木俊聡

### 第11回 日本免疫学会賞

峯岸克行（東京医科歯科大学）  
「原発性免疫不全症の病因・病態の解明」



▲ 峯岸克行

### 第3回 日本免疫学会研究奨励賞

石井健（大阪大学）  
「核酸による免疫制御機構の解明」



▲石井健



▲國澤純



▲竹内理

國澤純（東京大学）  
「粘膜ワクチン・粘膜免疫療法の開発に向けた粘膜免疫システムの解明」

竹内理（大阪大学）  
「自然免疫による病原体認識メカニズムの研究」

原博満（佐賀大学）  
「CARD9 と CARMA1 を介した免疫細胞活性化の制御機構」



▲原博満



▲前仲勝実

前仲勝実（九州大学）  
「生体防御に関わる細胞表面受容体の分子認識機構」



▲研究奨励賞授賞式

稲葉カヨ理事長（京都大学）時代 2009-2010



▲稲葉カヨ

▼2009

第39回 日本免疫学会総会・学術集会

2009年12月2日～12月4日  
学術集会長 宮坂昌之（大阪大学）  
会場 大阪国際会議場



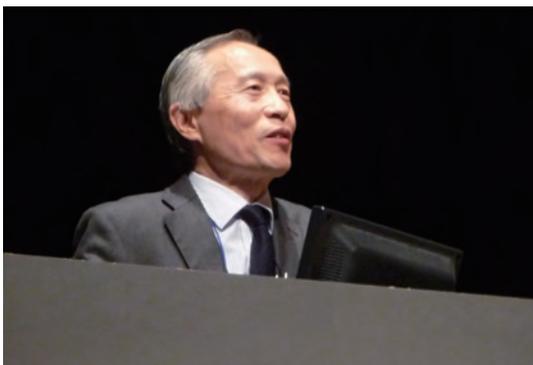
▲宮坂昌之学術集会長



▲シンポジウム Sidonia Fagarasan



▲シンポジウム 成宮周



▲シンポジウム 宮坂昌之



▲シンポジウム 吉森保



▲総会 稲葉カヨ



▲功労会員表彰



▲功労会員表彰 大澤利昭、稲葉カヨ



▲ワークショップ 宮坂昌之



▲懇親会 学術集会長挨拶



▲懇親会 岸本忠三 14th ICI 大会長挨拶



▲懇親会 Fritz Melchers



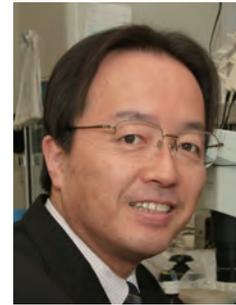
▲懇親会 高津聖志、Ursula & Fritz Melchers、黒崎知博



▲懇親会

### 第12回 日本免疫学会賞

改正恒康（理化学研究所 RCAI）  
「樹状細胞機能制御の分子基盤」



▲改正恒康

### 第4回 日本免疫学会研究奨励賞

植松智（大阪大学）  
「小腸粘膜固有層の Toll-like receptor 5 を発現する樹状細胞の機能解析」



▲植松智



▲小内伸幸



▲金城雄樹

小内伸幸（東京医科歯科大学）  
「樹状細胞分化とホメオスターシス」

金城雄樹（国立感染症研究所）  
「NKT 細胞が認識する細菌由来糖脂質抗原の同定」

篠原久明（理化学研究所 RCAI）  
「抗原受容体シグナルにおける NF- $\kappa$ B 活性化機構解析」



▲篠原久明



▲肥田重明

肥田重明（信州大学）  
「好塩基球を介した免疫応答制御」



▲研究奨励賞授賞式

## ▼2010

10th ICI の開催のため、この年は通常の学術集会は開催されず、12月3日に日本免疫学会シンポジウムが一橋記念講堂で開催され、総会、各賞の授賞式も行われた。



▲日本免疫学会シンポジウム

## 第13回 日本免疫学会賞

河本宏 (理化学研究所 RCAI)

「造血幹細胞から T 前駆細胞にいたる系列決定過程に関する研究」



▲河本宏

## 第5回 日本免疫学会研究奨励賞

大洞将嗣 (東京医科歯科大学)

「抗原受容体刺激による PLC- $\gamma$  下流シグナルの活性化機構: Ras-MAPK とストア作動性カルシウム流入」

常世田好司 (千葉大学)

「生体内における免疫記憶の維持メカニズムの解明」

新田剛 (徳島大学)

「胸腺微小環境における T 細胞レパトア形成のメカニズム」

野地智法 (The University of North Carolina)

「粘膜免疫学を基盤とした、次世代粘膜ワクチン開発」

長谷耕二 (理化学研究所 RCAI)

「粘膜表面の免疫監視に果たす M 細胞の役割の解明」



▲大洞将嗣



▲常世田好司



▲新田剛



▲野地智法



▲長谷耕二

菅村和夫理事長（宮城県立がんセンター）時代 2011-2012



▲菅村和夫

▼2011

第40回 日本免疫学会学術集会

2011年11月27日～11月29日  
学術集会長 徳久剛史（千葉大学）  
会場 幕張メッセ



▲徳久剛史学術集会長



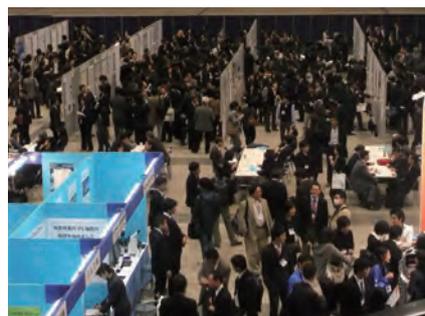
▲会場看板



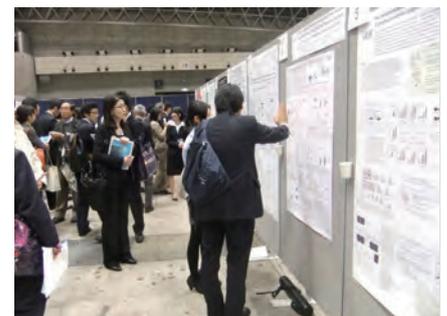
▲シンポジウム



▲学術集会長講演



▲ポスター



▲ポスター



▲懇親会 学術集会長挨拶



▲懇親会 理事長挨拶



▲懇親会 谷口克



▲懇親会 Fritz Melchers



▲懇親会 幡野雅彦、中山俊憲



▲懇親会 菅村和夫、徳久剛史、松島綱治



▲懇親会 岩間厚、幡野雅彦、岡本美孝、中島裕史、河野陽一、徳久剛史、中谷晴昭、小池隆夫



▲懇親会 徳久研

### 第14回 日本免疫学会賞

荒瀬尚 (大阪大学)

「ベア型レセプターによる免疫制御機構の研究」



▲ 荒瀬尚

### 第6回 日本免疫学会研究奨励賞

伊川友活 (理化学研究所 RCAI)

「T細胞/B細胞系列への運命決定における転写因子による制御機構の解明」

澤新一郎 (国立成育医療研究センター)

「マウス腸管における ROR  $\gamma$  t 自然リンパ球の機能解析」

鈴木敬一郎 (京都大学)

「腸管 IgA の産生機構とその粘膜上での役割」

手塚裕之 (東京医科歯科大学)

「腸管樹状細胞による IgA 生産誘導機構の解明」

馬場義裕 (大阪大学)

「カルシウムシグナルを介した免疫制御機構」



▲ 伊川友活



▲ 澤新一郎



▲ 鈴木敬一郎



▲ 手塚裕之



▲ 馬場義裕

▼2012

第41回 日本免疫学会学術集会

2012年12月5日～12月7日

学術集会長 審良静男 (大阪大学)

会場 神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル



▲審良静男学術集会長



▲看板



▲シンポジウム



▲ワークショップ



▲竹田潔プログラム委員長



▲ポスター会場



▲招待講演者交流会



▲懇親会 審良静男学術集会会長挨拶



▲懇親会 司会 竹内理



▲懇親会



▲乾杯 宮坂昌之



▲懇親会 齊藤隆次期理事長挨拶



▲懇親会 齊藤隆、審良静男、中山俊憲



▲懇親会 菅村和夫、伊藤守、田中勇悦



▲懇親会 山本一彦、高木智、烏山一



▲懇親会 審良静男、善本隆之、小安重夫、熊ノ郷淳、竹内理



▲懇親会

## 第15回 日本免疫学会賞

Sidonia Fagarasan (理化学研究所 RCAI)

「IgA synthesis: a form of functional immune adaptation extending beyond gut」



▲ Sidonia Fagarasan

## 第7回 日本免疫学会研究奨励賞

浅野謙一 (東京薬科大学)

「マクロファージによる死細胞貪食の免疫学的意義、およびその臨床応用」

伊勢涉 (大阪大学)

「抗体産生応答を制御する転写因子の機能解析」

齊藤達哉 (大阪大学)

「パターン認識受容体を介した自然免疫応答における活性酸素種の役割に関する解析」

七田崇 (慶応義塾大学)

「脳梗塞後炎症における免疫応答の解明」

鈴木一博 (大阪大学)

「免疫セマフォリン分子の機能解析と多光子励起顕微鏡を用いた生体イメージングによる免疫応答の可視化」



▲浅野謙一



▲伊勢涉



▲齊藤達哉



▲七田崇



▲鈴木一博

齊藤隆理事長（理化学研究所 RCAI）時代 2013-2014



▲齊藤隆

▼2013

第42回 日本免疫学会学術集会

2013年12月11日～12月13日

学術集会長 清野宏（東京大学）

会場 幕張メッセ



▲清野宏学術集会長



▲ポスター会場



▲ワインアンドチーズ 佐藤慎太郎、齊藤隆、Dan Littman、清野宏



▲ワインアンドチーズ 山本一彦、松島綱治



▲懇親会 清野宏、Fritz Melchers、Ursula Melchers、後方に審良静男、河上裕、Nicolas Chevrier



▲懇親会 中野裕康、齊藤隆



▲懇親会 河上裕、中山俊憲



▲懇親会 熊ノ郷淳、小安重夫、石井優



▲懇親会 稲葉カヨ、徳久剛史、烏山一

## 第16回 日本免疫学会賞

谷内一郎 (理化学研究所 IMS-RCAI)  
「転写因子による T 細胞分化制御機構の解明」



▲ 谷内一郎

## 第8回 日本免疫学会研究奨励賞

米谷耕平 (理化学研究所 IMS-RCAI)  
「B 細胞抗体産生を司る分子群の機能解明」



▲米谷耕平



▲関谷高史



▲廣田圭司

関谷高史 (慶応義塾大学)  
「核内オープン受容体 Nr4a による CD4+T 細胞分化制御の研究」

廣田圭司 (大阪大学)  
「炎症性 T ヘルパー細胞の機能と制御機構の解明」

三宅靖延 (九州大学)  
「抗原提示細胞による死細胞と結核菌に対する免疫応答に関する研究」



▲三宅靖延



▲柳井秀元

柳井秀元 (東京大学)  
「核酸認識・炎症性疾患における HMGB1 の機能解析」

▼ 2014

第 43 回 日本免疫学会学術集会

2014年 12月 10日～12月 12日

学術集会長 湊長博 (京都大学)

会場 国立京都国際会館



▲湊長博学術集会長



▲河本宏プログラム委員長



▲看板



▲ポスター会場



▲招待講演者交流会



▲招待講演者交流会 挨拶



▲招待講演者交流会 司会 河本宏



▲招待講演者交流会 挨拶 本庶佑



▲招待講演者交流会 Hans Schreiber、本庶佑



▲招待講演者交流会 宮坂昌之、椛島健治、奥は高浜洋介、河本宏



▲招待講演者交流会 濱崎洋子



▲懇親会 審良静男、湊長博



▲懇親会 Adrian Hayday、湊長博、濱崎洋子



▲懇親会風景

## 第17回 日本免疫学会賞

安友康二 (徳島大学)

「免疫難病の克服に向けた免疫調節の維持・破綻機構に関する研究」



▲安友康二

ヒト免疫研究賞と女性免疫研究者賞が創設された。

### 第1回 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

山本一彦 (東京大学)

「ヒト自己免疫疾患の解析」



▲山本一彦



▲稲葉カヨ

### 第1回 日本免疫学会女性免疫研究者賞

稲葉カヨ (京都大学)

「樹状細胞の機能解析」

## 第9回 日本免疫学会研究奨励賞

尾松芳樹 (京都大学)

「造血幹細胞・前駆細胞と免疫細胞を維持するニッチの機能と形成機構の解析」



▲尾松芳樹



▲倉島洋介



▲佐藤荘

倉島洋介 (東京大学)

「体表面バリアにおけるマスト細胞の機能調節因子の探索と疾患治療に向けた取り組み」

佐藤荘 (大阪大学)

「疾患特異的 M2 マクロファージの生体内での役割と分化機構の解明」

西村智 (自治医科大学)

「肥満脂肪組織における免疫細胞賦活化機構：生体分子イメージングによる解析」



▲西村智



▲八木良二

八木良二 (千葉大学)

「転写因子 GATA3 によるヘルパー T 細胞および自然リンパ球の分化制御機構の研究」

審良静男理事長（大阪大学）時代 2015-2016



▲審良静男

▼2015

第44回 日本免疫学会学術集会

2015年11月18日～11月20日  
学術集会長 小安重夫（理化学研究所 IMS）  
会場 札幌コンベンションセンター



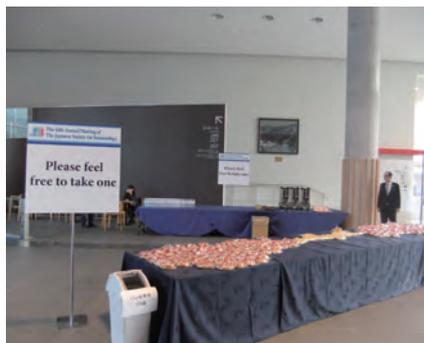
▲小安重夫学術集会長



▲吉村昭彦プログラム委員長



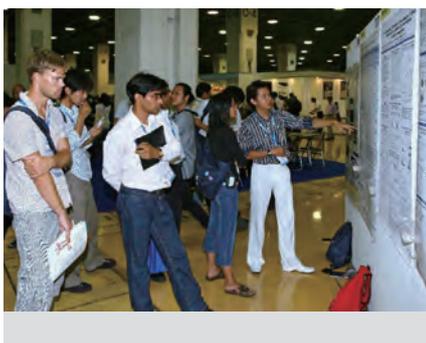
▲看板



▲朝食ブース



▲ワークショップ



▲ポスターセッション



▲招待講演者交流会 渡邊武、小安重夫



▲招待講演者交流会 Ruslan Medzhitov



▲招待講演者交流会 稲葉カヨ



▲招待講演者交流会 熊ノ郷淳、樽木俊聡、竹田潔



▲招待講演者交流会 山本一彦、審良静男、中山俊憲

### 第 18 回 日本免疫学会賞

本田賢也 (慶應義塾大学)

「腸内細菌による免疫系制御機構の解明」



▲本田賢也

### 第 2 回 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

西村泰治 (熊本大学)

「ヒト T 細胞の抗原認識と免疫応答の解析：その疾患感受性解析と免疫療法開発への応用」



▲西村泰治



▲東みゆき

### 第 2 回 日本免疫学会女性免疫研究者賞

東みゆき (東京医科歯科大学)

「共刺激分子の機能解析と免疫制御法開発」

### 第 10 回 日本免疫学会研究奨励賞

後藤義幸 (東京大学)

「腸内細菌および 3 型自然リンパ球による腸管恒常性制御機構の解明」



▲後藤義幸



▲小松紀子

小松紀子 (東京大学)

「Foxp3+T 細胞の分化可塑性と自己免疫性関節炎における重要性の解明」

高田健介 (徳島大学)

「胸腺プロテアソームを介した CD8+T 細胞の正の選択に関する研究」



▲高田健介



▲平原潔

平原潔 (千葉大学)

「CD4 T 細胞を介した免疫恒常性制御機構の解明」

▼2016

第45回 日本免疫学会学術集会

2016年12月5日～12月7日

学術集会長 坂口志文 (大阪大学)

会場 沖縄コンベンションセンター・ラグナガーデンホテル



▲坂口志文学術集会長



▲会場



▲会場



▲会場



▲ポスター



▲招待講演者交流会 Frederica Sallusto



▲招待講演者交流会司会 竹田潔



▲招待講演者交流会 Ronald Germain



▲招待講演者交流会



▲招待講演者交流会 坂口教子、坂口志文

### 第19回 日本免疫学会賞

高柳広 (東京大学)  
「骨免疫学による自己免疫疾患の研究」



▲ 高柳広

### 第3回 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

松島 綱治 (東京大学)  
「サイトカイン・ケモカインの基礎研究を通じた免疫難病治療への貢献」



▲ 松島綱治



▲ 片桐晃子

### 第3回 日本免疫学会女性免疫研究者賞

片桐 晃子 (北里大学)  
「リンパ球動態制御機構の解明」

### 第11回 日本免疫学会研究奨励賞

新幸二 (慶応義塾大学)  
「腸管T細胞の分化・活性化を促進する腸内細菌の同定」



▲新幸二



▲飯島則文



▲遠藤裕介

飯島則文 (医薬基盤・健康・栄養研究所)  
「性感染症を引き起こすウイルスに対する末梢組織生体防御機構の解明」

遠藤裕介 (千葉大学)  
「脂肪酸代謝経路のヘルパーT細胞分化における役割と肥満病態における重要性の解明」

岡本一男 (東京大学)  
「IL-17産生T細胞の分化と自己免疫疾患・骨疾患における機能の解明」

茂呂和世 (理化学研究所 IMS)  
「ナチュラルヘルパー細胞の発見と機能解析」



▲岡本一男



▲茂呂和世

坂口志文理事長（大阪大学）時代 2017-2018

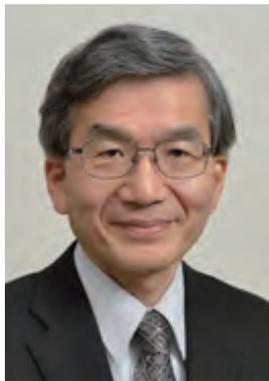


▲坂口志文

▼2017

第46回 日本免疫学会学術集会

2017年12月12日～12月14日  
 学術集会長 烏山一（東京医科歯科大学）  
 会場 仙台国際センター



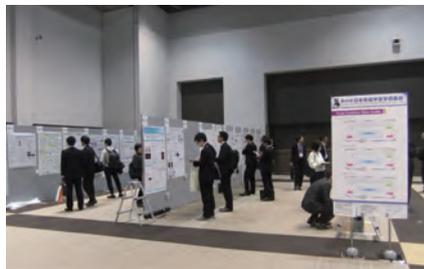
▲烏山一学術集会長



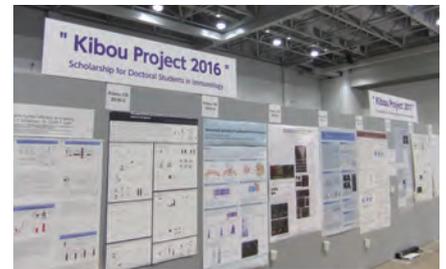
▲会場



▲感謝状 Melchers 夫妻



▲ポスターセッション



▲ポスターセッション



▲招待講演者交流会 学術集会長挨拶



▲招待講演者交流会 烏山一、Fritz Melchers



▲招待講演者交流会 菅村和夫、山西古典



▲招待講演者交流会 会場風景



▲招待講演者交流会 山本一彦、齊藤隆



▲招待講演者交流会 宮崎正輝、高橋宜聖、鏑田武志、北村大介



▲懇親会 烏山一学術集会長挨拶



▲懇親会 坂口志文理事長挨拶



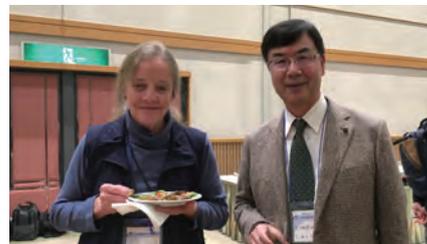
▲懇親会 Fritz Melchers



▲懇親会 松島綱治, 山下政克, 渋谷和子



▲懇親会 東みゆき, 久保允人, 渡邊武, 北村大介, 王継揚



▲懇親会 Kathryn Haskins, 坂口志文

## 第 20 回 日本免疫学会賞

高岡晃教 (北海道大学)

「微生物に対する自然免疫応答の分子基盤の解明」



▲高岡晃教

## 第 4 回 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

木下タロウ (大阪大学)

「発作性夜間ヘモグロビン尿症の発症メカニズムの解明」



▲木下タロウ



▲COBAN, Cevayir

## 第 4 回 日本免疫学会女性免疫研究者賞

Cevayir Coban (大阪大学)

「Immunology of host-Plasmodium parasite interactions」

## 第 12 回 日本免疫学会研究奨励賞

市山健司 (大阪大学)

「IL-17 産生ヘルパー T 細胞の分化を制御する新規因子の同定およびその機能解明」



▲市山健司



▲笹井美和



▲佐藤尚子

笹井美和 (大阪大学)

「細胞内小胞輸送を介した病原体排除機構に関する研究」

佐藤尚子 (理化学研究所 IMS)

「3 型自然リンパ球の発見および病原性 / 共生細菌と ILC サブセットの相互機能解析」

鍋倉 宰 (筑波大学)

「記憶ナチュラルキラー細胞分化の分子機構の解析」



▲鍋倉 宰



▲平安恒幸

平安恒幸 (大阪大学)

「多様化レセプター群 LILR および KIR と病原体との相互作用に関する研究」

▼2018

第47回 日本免疫学会学術集会

2018年12月10日～12月12日

学術集会長 山本一彦（理化学研究所 IMS）

会場 福岡国際会議場



▲山本一彦学術集会長



▲会場



▲ポスターセッション



▲交流会 山本一彦学術集会長挨拶



▲交流会 坂口志文理事長挨拶



▲交流会 笹月健彦挨拶



▲交流会 清野宏、竹田潔



▲次期学術集会会長挨拶 黒崎知博

### 第 21 回 日本免疫学会賞

山崎晶 (大阪大学)

「免疫受容体による異物識別機構の解明」



▲山崎晶



▲日本免疫学会賞受賞講演

### 第 5 回 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

河上裕 (慶応義塾大学)

「ヒトがん免疫病態の解明によるがん免疫療法の開発」



▲河上裕



▲反町典子

### 第 5 回 日本免疫学会女性免疫研究者賞

反町典子 (国立国際医療センター研究所)

「オルガネラホメオスタシスを機軸とした炎症制御機構の解明」

### 第 13 回 日本免疫学会研究奨励賞

姜秀辰 (大阪大学)

「腸管免疫ホメオスタシス維持における神経・免疫・代謝連関の解明」



▲姜秀辰



▲金谷高史



▲寺島明日香

金谷高史 (理化学研究所 IMS)

「腸管免疫を発動する M 細胞の分化機構に関する研究」

寺島明日香 (東京大学)

「全身炎症疾患モデルマウスにおける骨髄環境の変容解明」

細川裕之 (カリフォルニア工科大学 / 東海大学)

「転写因子による T 細胞分化および機能制御機構の解明」

王静 (Shanghai JiaoTong University)

「炎症応答における好中球の制御および動態の研究」



▲細川裕之



▲王静

清野宏理事長（東京大学）時代 2019-2020



▲清野宏

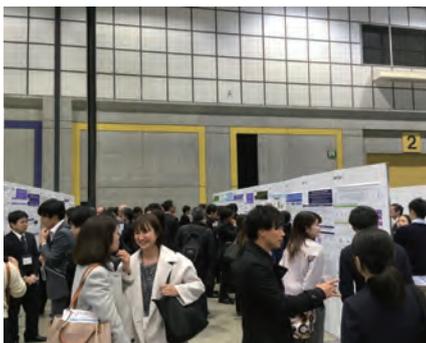
▼2019

第48回 日本免疫学会学術集会

2019年12月11日～12月13日  
学術集会長 黒崎知博（大阪大学）  
会場 アクトシティ浜松



▲黒崎知博学術集会長



▲ポスター発表



▲ノーベル賞受賞記念特別講演 本庶佑



▲招待講演者交流会



▲招待講演者交流会 Ursula Melchers、黒崎知博、Fritz Melchers



▲招待講演者交流会 Ursula Melchers、Fritz Melchers、清野宏



▲会員懇親会 学術集会長と理事長 清野宏、黒崎知博、司会 竹田潔



▲会員懇親会 清野宏理事長挨拶



▲会員懇親会 齊藤隆、渋谷彰、渋谷和子、山本一彦、河上裕

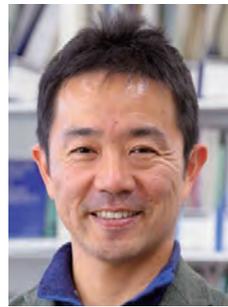


▲会員懇親会 会場風景

## 第 22 回 日本免疫学会賞

石井健 (東京大学)  
「ワクチンアジュバントのメカニズム解明とその臨床応用」

梶島健治 (京都大学)  
「皮膚を場とした免疫ダイナミズムの分子基盤の研究」



▲ 石井健



▲ 梶島健治

## 第 6 回 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

山村隆 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所)  
「視神経脊髄炎の病態解析に基づく IL-6 シグナル阻害療法の提唱と実現」



▲ 山村隆



▲ 新藏礼子

## 第 6 回 日本免疫学会女性免疫研究者賞

新藏礼子 (東京大学)  
「腸管 IgA 抗体による腸内細菌制御機構の解明」

## 第 14 回 日本免疫学会研究奨励賞

伊沢久未 (順天堂大学)  
「ペア型免疫受容体 CD300 によるマスト細胞の Fc ε RI シグナル制御機構の解明」

伊藤美菜子 (慶応義塾大学)  
「脳梗塞慢性期における制御性 T 細胞の機能解析」

井上毅 (大阪大学)  
「B 細胞の分化・活性化を制御する分子群の機能解明」

杉浦大祐 (徳島大学)  
「免疫抑制補助受容体による T 細胞活性化制御機構の解明」

田之上大 (慶応義塾大学)  
「宿主免疫系に影響を与える腸内常在細菌に関する研究」



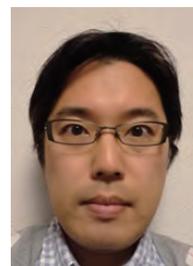
▲伊沢久未



▲伊藤美菜子



▲井上毅



▲杉浦大祐



▲ 田之上大

▼ 2020

第 49 回 日本免疫学会学術集会

2020年12月11日

学術集会長 清野宏 (東京大学)

会場 オンライン開催

Covid-19 の蔓延のために初のオンライン開催となった。



▲清野宏学術集会長

**第49回** The 49th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology  
**日本免疫学会学術集会**  
 2020年12月8日(火) オンライン開催  
 会長: 清野 宏 (特許非営利活動法人 日本免疫学会 理事長)

**COVID-19 and Immunity**

**Keynote Remarks**  
 Anthony S. Fauci, Director of NIAID, U.S.A.

**Symposium**  
**Vaccine and Immunity**  
 Akiko Iwasaki, Yale University, U.S.A.  
 Alessandro Sette, La Jolla Institute for Immunology, U.S.A.  
 George Fu Gao, China CDC, China  
 Hiromori Nakagami, Osaka University, Japan  
 Ken J. Ishii, The University of Tokyo, Japan

**Cytokine Storm and Related Disease**  
 Tadamitsu Kishimoto, Osaka University, Japan  
 Josef Penninger, University of British Columbia, Canada  
 Yumiko Imai, National Institutes of Biomedical Innovation, Health and Nutrition (NIBI), Japan  
 Takanori Kanai, Tohoku University, Japan  
 Hisashi Arase, Osaka University, Japan

**レビュートーク (日本語)**  
 宮坂昌之 (大阪大学)

**パネルディスカッション (日本語)**  
 石井 健 (東京大学)  
 夕井由美子 (公益財団法人 免疫研究)  
 金井義典 (筑波医科大学)  
 高橋宜聖 (国立感染症研究所)  
 宮坂昌之 (大阪大学)

**参加登録**  
<http://icongroup.co.jp/49immunology/>  
 2020年 11月21日(金)~11月30日(木) オンラインセミナー申し込み受付期間  
 2020年 12月11日(金)~12月25日(木) オンラインセミナー実施  
 正会員: 1,000円 学生会員: 無料  
 非会員: 2,000円 非会員学生: 500円

**実行委員会・プログラム委員会**  
 委員長: 橋本俊昭 (東京理科大学)  
 委員: [1] 野崎ゆき (東京理科大学) 或 [2] 野崎ゆき (東京理科大学)  
 幹事: 宮坂昌之 (大阪大学)  
 反町典子 (国立感染症研究所 センター)  
 竹田 潔 (大阪大学)  
 堀 昌子 (筑波大学)  
 安友雄三 (筑波大学)  
 中島彰史 (千葉大学)

**プログラム委員会**  
 委員: 花巻 潤 (大阪大学)  
 石井 健 (東京大学)  
 高橋宜聖 (国立感染症研究所)  
 村上正嗣 (北海道大学)  
 吉村順彦 (東北大学)

協賛: 国立感染症研究所 日本免疫学会 日本免疫学会学術集会  
 協賛: 日本免疫学会 日本免疫学会学術集会

場内事務局  
 150-8022 東京都港区北青山1-1-1 合同会社 iCON 内  
 TEL: 03-6871-9421 E-mail: 49immunology@icongroup.co.jp

学術事務局  
 104-0024 東京都千代田区錦田錦泉町1-4-2 KUMAKI 2F  
 TEL: 03-5809-2019 E-mail: con@jso-memachi.or.jp

▲第 49 回ポスター



▲清野宏学術集会会長挨拶



▲学術集会事務局 清野宏



▲学術集会事務局 竹田潔



▲オンライン授賞式

### 第23回 日本免疫学会賞

竹内理（京都大学）

「自然免疫による病原体認識とその制御機構の解明」

長谷耕二（慶應義塾大学）

「粘膜免疫応答の制御機構の解明」



▲ 竹内理



▲ 長谷耕二

### 第7回 日本免疫学会ヒト免疫研究賞

金井隆典（慶應義塾大学）

「腸内細菌による免疫・神経反射の臓器連関破綻によるヒト消化器免疫疾患の病態の解明」



▲ 金井隆典



▲ 三宅幸子

### 第7回 日本免疫学会女性免疫研究者賞

三宅幸子（順天堂大学）

「インバリアントT細胞を介した炎症性疾患制御に関する研究」

### 第15回 日本免疫学会研究奨励賞

香山尚子（大阪大学）

「自然免疫細胞によるT細胞活性制御を介した腸管恒常性維持機構の解明」

河野通仁（北海道大学）

「自己免疫性疾患におけるT細胞細胞内代謝の役割」

寺尾知可史（理化学研究所 IMS）

「臨床応用を見据えた免疫疾患・形質のゲノム解析」

丸橋拓海（東京大学）

「抑制性免疫補助受容体LAG-3による自己反応性ヘルパーT細胞制御機構の解明」

三上統久（レグセル株式会社）

「安定で効率的な制御性T細胞の作製法開発」



▲ 香山尚子



▲ 河野通仁



▲ 寺尾知可史



▲ 丸橋拓海



▲ 三上統久

小安重夫理事長（理化学研究所）時代 2021-2022



▲小安重夫

▼2021

**第50回 日本免疫学会学術集会**

2021年12月8日～12月10日  
学術集会長 渋谷彰（筑波大学）  
会場 奈良春日野国際フォーラム薨



▲渋谷彰学術集会長

# アウトリーチ活動

## 1. 免疫ふしぎ未来

### ▼2007

一般市民を対象にしたアウトリーチ活動として、お台場の日本科学未来館にて「免疫ふしぎ未来」のイベントを開催した。



▲免疫ふしぎ未来 2007

### ▼2008

免疫ふしぎ未来 2008



▲免疫ふしぎ未来 2008 看板



▲免疫ふしぎ未来 2008 スタッフ



▲免疫ふしぎ未来 2008 免疫学会活動紹介



▲日本科学未来館館長毛利衛氏を宮坂昌之理事長が訪問

## ▼ 2009

## 免疫ふしぎ未来 2009



▲免疫ふしぎ未来 2009



▲免疫ふしぎ未来 2009 中野裕康実行委員長



▲免疫ふしぎ未来 2009 会場風景



▲免疫ふしぎ未来 2009 会場風景



▲免疫ふしぎ未来 2009 in 仙台



▲免疫ふしぎ未来 2009 in 広島





▲免疫ふしぎ未来 2009 in 北陸

「免疫ふしぎ未来」 in Kagoshima

## くすりになった抗体

本イベントは、一般の方々に対して、免疫学の  
おもしろさ、不能論を知らせていただくための  
企画であり、鹿児島で開催の機会では、抗体を  
タスリとして利用するための最先端の研究につ  
いて、やさしいショートトークを行います。

**日時**：平成21年5月2(土)  
10:00~12:30

**会場**：鹿児島大学看護会館  
(鹿児島市都立1丁目21-40)

**対象**：一般市民  
(中学、高校、大学生を含む)

**予定人数**：30名程度

**参加費**：200円  
(茶菓子代として)

**抗体ができるまで：免疫の基礎**  
鹿児島大学大学院工学研究科教授 杉村 和久  
(10:00~10:30、テーマ別講座10分)

**ヒトの抗体をくすりにする**  
鹿児島大学大学院工学研究科准教授 伊東 篤二  
(10:40~11:10、テーマ別講座10分)

**抗体で病気を治す**  
鹿児島大学大学院医学総合研究科教授 野島 善博  
(11:20~11:50、テーマ別講座10分)

**フリートーク** (12:00~12:30)

**プログラム**  
質問すると、  
プレゼント!!  
「からだをまも  
る免疫のふしぎ  
(羊土社刊)」(1冊限定)

申込先：鹿児島大学「イノベーション」事務局事務局、〒890-0055 鹿児島市都立1丁目21-40  
「免疫ふしぎ未来」事務局と事務局上、お申し込みください。申込期間：平成21年4月20日  
申込先：〒890-0055 鹿児島市都立1丁目21-40  
鹿児島大学工学部化学系工務科内「免疫ふしぎ未来」申込係 担当 野 田 099-833-4344

協賛：鹿児島県立看護大学・日本免疫学会  
後援：鹿児島大学、(財)科学技術振興機構「イノベーション」推進、鹿児島県教育委員会(予定)

▲免疫ふしぎ未来 2009 in 鹿児島



▲免疫ふしぎ未来 2009 in 鹿児島

## ▼ 2011

## 免疫ふしぎ未来 2011



▲免疫ふしぎ未来 2011

## ▼ 2012

## 免疫ふしぎ未来 2012



▲免疫ふしぎ未来 2012



▲後飯塚僚実行委員長



▲受付



▲スタッフミーティング 後飯塚僚, 河本宏



▲パネル準備



▲ショートトーク 司会、田中ゆり子



▲ショートトーク



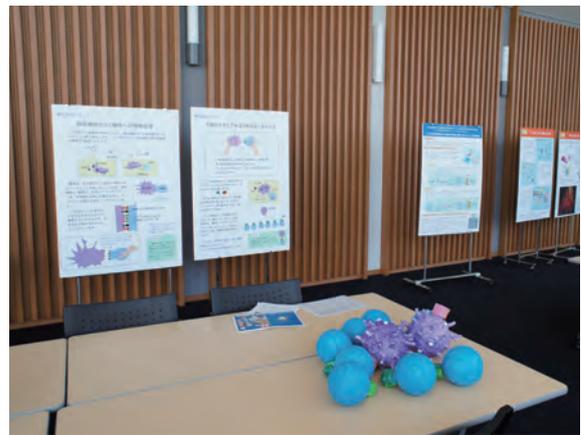
▲観察コーナー (iPS) 説明、本村泰隆



▲観察コーナー (iPS2)



▲観察コーナー (カエル) 説明、反町典子



▲観察コーナー (スポンジ)



▲打ち上げライブ 久保允人

▼ 2013

免疫ふしぎ未来 2013



▲看板



▲展示



▲スタッフミーティング 久保允人



▲お面 反町典子

▼ 2014

免疫ふしぎ未来 2014



▲会場



▲標本作製 右手前、望月美穂一人おいて神岡真理子



▲顕微鏡 中央、石渡賢治



▲水槽観察



▲実習 左から2人目、石渡賢治



▲免疫細胞レクチャー 菅野雅元

## ▼ 2015

## 免疫ふしぎ未来 2015



▲顕微鏡観察 ピンクのシャツ、石渡賢治



▲顕微鏡観察 手前の説明者、渡会浩志



▲ショートトーク 審良静男



▲紙芝居



▲ポスター



▲集合写真



▲打ち上げライブ 田原聡子



▲打ち上げライブ 鈴木春巳



▲打ち上げライブ 茂呂和世



▲打ち上げライブ 大野博司



▲打ち上げライブ 小安研&茂呂研メンバー

▼2016

免疫ふしぎ未来 2016



▲3D 模型 手前 今西貴之



▲DNA 抽出 小嶋英史



▲iPS細胞



▲インジェクション



▲ショートトーク 坂口志文



▲ダーツ



▲寄生虫



▲蛍光顕微鏡 松井毅



▲紙芝居



▲標本作製



▲標本観察 小安重夫



▲集合写真

▼ 2018

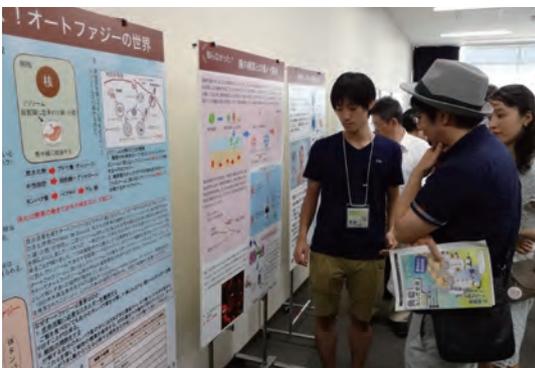
免疫ふしぎ未来 2018



▲3D 模型



▲ショートトーク 坂口志文



▲パネル



▲寄生虫 岩村憲



▲生き物



▲赤血球



▲標本作製

▼ 2019

免疫ふしぎ未来 2019



▲3D 模型



▲DNA 抽出



▲アトラクション会場風景



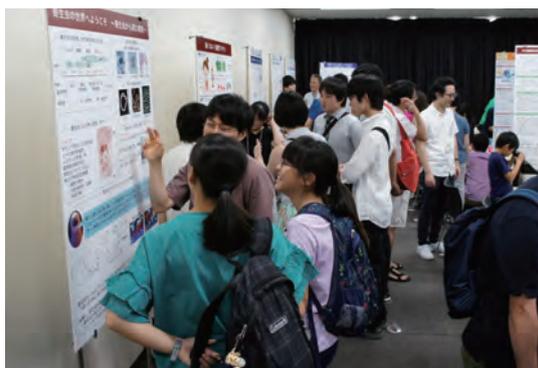
▲ショートトーク 清野宏



▲スタンプ



▲ダーツ 小川修平、後飯塚僚



▲パネル



▲ボードゲーム



▲寄生虫 石渡賢治



▲蛍光顕微鏡



▲生き物 新田剛



▲標本染色 左から宮島優里奈、岳野なつき



▲標本観察



▲集合写真

## 2. 免疫サマースクール

## ▼ 1998

第1回免疫サマースクールが開催された。



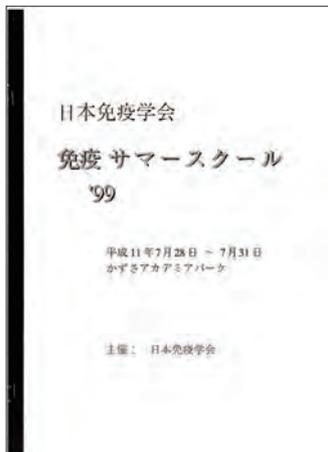
▲第1回免疫サマースクール



▲集合写真

## ▼ 1999

第2回免疫サマースクール



▲第2回免疫サマースクール



▲高月清先生を囲んで



▲オーガナイザー 小安重夫、西川伸一（前オーガナイザー）、齋藤隆、鏑田武志、秋田弘美（小安研秘書）

## ▼ 2000

## 第3回免疫サマースクール



▲第3回免疫サマースクール

## ▼ 2001

## 第4回免疫サマースクール



▲第4回免疫サマースクール

## ▼ 2002

## 第5回免疫サマースクール



▲第5回免疫サマースクール

## ▼ 2003

## 第6回免疫サマースクール



▲第6回免疫サマースクール

## ▼ 2004

## 第7回免疫サマースクール



▲第7回免疫サマースクール



▲集合写真

## ▼ 2005

## 第8回免疫サマースクール



▲第8回免疫サマースクール

## ▼ 2006

## 第9回免疫サマースクール



▲第9回免疫サマースクール



▲集合写真

## ▼ 2007

## 第10回免疫サマースクール



▲第10回免疫サマースクール



▲集合写真



▲第10回免疫サマースクール講義



▲第10回免疫サマースクール講義



▲ポスター



▲フリーディスカッション 中央に谷口克、鳥山一



▲フリーディスカッション 小安重夫、山本雅裕、鳥山一、宇高恵子、河本宏、中山俊憲、本田賢也

## ▼ 2008

## 第 11 回免疫サマースクール



▲第 11 回免疫サマースクール



▲集合写真



▲フリーディスカッション 小安重夫、竹ヶ原宣子、審良静男

## ▼ 2009

## 第 12 回免疫サマースクール



▲第 12 回免疫サマースクール



▲集合写真

## ▼ 2011

## 第 13 回免疫サマースクール



▲第 13 回免疫サマースクール

## ▼ 2012

## 第 14 回免疫サマースクール



▲第 14 回免疫サマースクール



▲集合写真



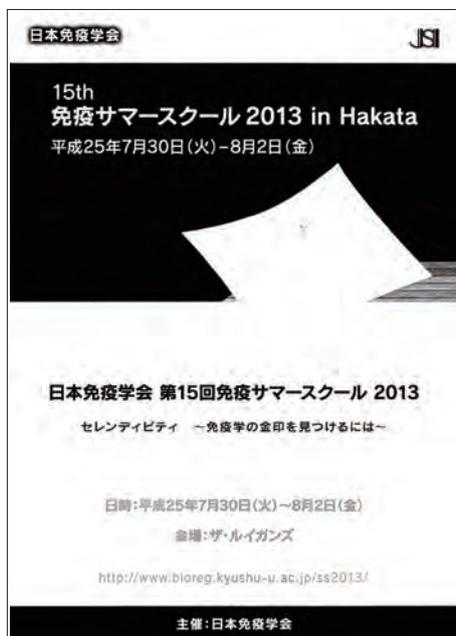
▲免疫学者と語る会 山本一彦



▲柘島健治、小安重夫、石井健、高岡晃教

## ▼ 2013

## 第15回免疫サマースクール



▲第15回免疫サマースクール



▲第15回免疫サマースクール 集合写真

## ▼ 2014

## 第16回免疫サマースクール



▲第16回免疫サマースクール



▲集合写真



▲研究者のタベ 小安重夫



▲オリーブ公園

## ▼ 2015

## 第 17 回免疫サマースクール



▲第 17 回免疫サマースクール



▲集合写真

## ▼ 2016

## 第 18 回免疫サマースクール



▲第 18 回免疫サマースクール



▲集合写真



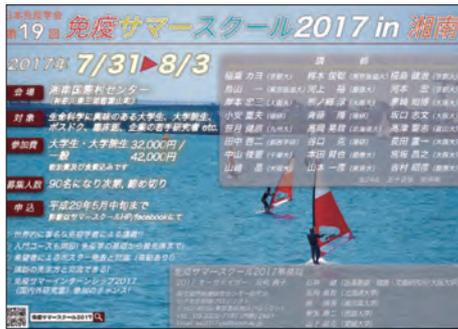
▲スクール風景



▲スクール風景

## ▼ 2017

## 第19回免疫サマースクール



▲第19回免疫サマースクール



▲集合写真



▲活発なポスターセッション



▲研究者を囲むタビ



▲集合写真

▼ 2018

第 20 回免疫サマースクール



▲第 20 回免疫サマースクール



▲唐船峡で昼食 岸本忠三



▲講義風景



▲フェアウェルパーティー



▲エイサー



▲優秀ポスター賞



▲集合写真



▲フリーディスカッション

## ▼ 2019

## 第 21 回免疫サマースクール

日本免疫学会  
第21回 免疫サマースクール2019 in 愛媛  
潮風に吹かれながら免疫学について熱く語り合いませんか！

2019年7月29日(月)～8月1日(木)  
今治国際ホテル愛媛県今治市旭町2-3-4

講師の先生方 (五十音順・敬称略)

菅原 幹男 (大阪大学)	久保 允人 (理研RIMS)	高津 聖志 (富山大学)
梶島 健治 (京都大学)	嵐崎 知博 (大阪大学)	高橋 広 (東京大学)
河合 太郎 (東京医歯大)	斎藤 隆 (理研RIMS)	谷内 一郎 (理研RIMS)
河上 祐 (慶應大学)	笹月 健彦 (九州大学)	谷口 克 (理研RIMS)
河本 宏 (京都大学)	渋谷 和子 (筑波大学)	松島 剛治 (東京理科大学)
藤本 忠三 (大阪大学)	坂町 典子 (国際医療研究センター)	村上 正寛 (北海道大学)
清野 宏 (東大大学)	高岡 晃教 (北海道大学)	山本 一憲 (理研RIMS)

対象 生命科学に興味のある学生・大学院生・  
ポストドク(産業界・企業)の若手研究者など

参加人数 60名に達し次第締め切り

参加費 学生 32,000円 / 一般 42,000円 (宿泊費/食費込)

申し込み 公式HPで受付 (2019年5月末まで)

お問い合わせ先:  
免疫サマースクール2019事務局  
代表 山下 政克  
愛媛大学大学院 医学系研究科  
免疫学・感染症学講座  
〒791-8525 愛媛県今治市志津川  
TEL: 09-960-5274  
E-mail: es2019@im.ahime-u.ac.jp

コーディネーター 日本免疫学会教育推進委員会  
河合 太郎 (理研RIMS/京都大学) / 斎藤 隆 (理研RIMS)  
嵐崎 知博 (九州大学) / 藤本 忠三 (東大大学)  
渡辺 裕世 (理研RIMS)  
山下 政克 (愛媛大学・オーガナイザー代表)

詳細は公式ホームページを  
ご覧ください  
<https://es2019.jp>

免疫サマースクール2019

▲第 21 回免疫サマースクール



▲集合写真



▲集合写真（懇親会場）



▲清野宏理事長講義



▲研究者を囲む夕べ 笹月健彦



▲ポスターセッション

## 国際交流活動

### ▼ 1971

International Union of Immunological Societies(IUIS) に加盟した。

### ▼ 1977

3rd International Congress of Immunology がシドニーで開かれた。



▲尾上薫研究室の面々

3rd ICI における IUIS 総会で多田富雄理事が選ばれた (1977 年 -1983 年)

### ▼ 1980

4th International Congress of Immunology がパリで開催された。



▲岸本忠三、渡邊武



▲本庶佑、岸本忠三、Thomas Waldmann

日本免疫学会代表団が中国を訪問した。



▲中央 谷口克、山村雄一



▲山村雄一、岸本忠三、谷口克

## ▼ 1982

The OJI Symposium ON INNUMOLOGY

国際免疫学会の前哨戦として、王子製紙主催のシンポジウムが北海道で開催された。国内の免疫学者が集結した。



▲集合写真



▲本庶佑、笹月健彦、岸本忠三、谷口克

## ▼ 1983

5th International Congress of Immunology が開催された。

1983年8月

会長名 山村雄一（大阪大学医学部） プログラム委員長 多田富雄（東京大学医学部）

会場 京都国際会館



▲山村雄一大会長、ド・ヴェック国際免疫学会連合会長、シナダー第6回国際免疫学会義会長



▲会場風景（4000人が参加した）



▲多田富雄プログラム委員長と Cesar Milstein（1984年ノーベル生理学・医学賞）



▲講演風景



▲北村聖、八木淳二、小安重夫、烏山一



▲バンケット 多田富雄、Cesar Milstein



▲バンケット



▲尾上薫、H.N. アイゼン、岸本忠三



▲山村会長招宴



▲芸妓さん



▲能舞台での舞の鑑賞



▲能の鑑賞



▲ガーデンパーティー



▲ガーデンパーティー



▲石坂照子、多田富雄、石坂公成



▲阿波踊り



▲阿波踊り

IUIS 総会で八木康夫が理事に選ばれた（1983年-1986年）

## ▼1984



▲ハワイの日米がん会議 大沢利昭、多田富雄、谷口維紹、橋本嘉幸

## ▼1986

6th International Congress of Immunology における IUIS 総会で岸本忠三が理事に選ばれた (1986年 -1992年)

## ▼1992

8th International Congress of Immunology における IUIS 総会で多田富雄が副会長 (次期会長予定者) (1992年 -1995年) に、笹月健彦が理事に選ばれた (1992年 -1998年)

## ▼1995

9th International Congress of Immunology における IUIS 総会で多田富雄が IUIS の会長に就任した (1995年 -1998年)。



▲多田富雄

## ▼1996

笹月健彦 (九大生医研) が、Federation of Immunological Societies of Asia-Oceania (FIMSA) の会長に就任した (1996年 -2000年)。



▲1st FIMSA Congress (1996年12月1日～5日、アデレード)

第2回 国際京都ライフサイエンスシンポジウムが開催された。



▲ 2nd International Kyoto Life Science Symposium "Lymphocyte Selection, Tolerance & Autoimmunity" (1996年5月26日～27日、京都)

## ▼ 1998

多田富雄が IUIS の会長の任期中、インドのニューデリーで 10th International Congress of Immunology が成功裡に開催された。



▲ 10th ICI 開会式



▲ 10th ICI バンケット



▲ 10th ICI バンケットのプレジデントスピーチ



▲ 10th ICI バンケット 中央に笹月健彦、その左に Günter Hämmerling、右に垣生園子、その右に Ruby Pawankar 左端は Bernard Malissen



▲ 10th ICI バンケット 渡邊武、宮坂昌之、高津聖志



▲ 10th ICI バンケット 食事風景 久保允人、多田富雄、Fritz Melchers、Zoltan Ovary



▲ 10th ICI バンケット 食事風景 多田富雄、Vijay Kchroo



▲ 10th ICI 学会風景



▲ 10th ICI 総会の様子



▲ 10th ICI 民族舞踊



▲ 10th ICI 民族舞踊鑑賞 多田富雄、Ruby Pawankar、Narinder Mehra



▲ 10th ICI Farewell party 本庶佑、多田富雄



▲ 10th ICI Farewell party 笹月健彦



▲ 10th ICI Farewell party 谷口克、多田富雄



▲ 10th ICI Farewell party 徳久剛史



▲ 10th ICI 大会長 Narinder Mehra 夫妻と多田富雄



▲ 12th ICI Malcolm George Baines 大会長と多田富雄



▲ 10th ICI 終了後



▲ IUIS 関係者 Fritz Melchers (vice-president)、一人おいて Gustav Nossal、Philippa Marrack、Cezmi A. Akdis、Henry Metzger (past president)、多田富雄 (president)



▲ 10th ICI 多田富雄夫妻で参加

10th ICI における IUIS 総会で宮坂昌之が理事に選ばれた (1998 年 -2004 年)

## ▼ 2001

第4回 FIMSA Advanced Immunology Course が開催された (3月5日～9日、インド、ニューデリー)



▲集合写真



▲講師陣 中西憲司、宮坂昌之、小安重夫

## ▼ 2002

第6回 FIMSA Advanced Training Course が開催された。



▲ Stitaya Sirisinha FIMSA 会長と講師の中西憲司

## ▼2004

カナダのモントリオール（7月19～23日）で12th International Congress of Immunologyが開催された。



▲12th ICI

IUISの理事会、総会において、高津聖志日本免疫学会会長、清野宏、小安重夫、宮坂昌之の4名のチームで臨み、最終投票で対抗馬のローマを大差で破り、2010年に日本での2度目のICI招致がなかった。



▲2010年ICI招致決定 清野宏、高津聖志、宮坂昌之、小安重夫

12th ICIにおけるIUIS総会で高津聖志が理事に選ばれた（2004年-2010年）。また同じく会期中に開催されたFIMSA理事会で高津聖志が会長に選ばれた（2004年-2007年）。

## ▼ 2007

13th International Congress of Immunology (Immuno Rio 2007) がブラジルのリオデジャネイロで開催された。治安が悪いため、日本人は宿と会場をチャーターバスで移動した。



▲ Immuno Rio 2007 会場



▲ Immuno Rio 2007 受付



▲ IUIS 理事会でのプロモーションチラシ



▲ 2010 ICI の PR ポロシャツ 高津聖志、小安重夫、宮坂昌之



▲ 2010 ICI 紹介ブース



▲ 2010 ICI 紹介ブース 宮坂昌之



▲ 2010 ICI PR 用メモパッド



▲ 2010 ICI 組織委員会と International Immunology 誌共催のレセプション



▲宮坂昌之と Peter Doherty (IUIS 会長)



▲高津聖志と Stefan Kaufmann (IUIS 副会長)



▲閉会式 Rio から Kansai へ



▲ 2010 ICI ロゴ



▲ 2010 ICI ホームページ



▲参加者 高津聖志、宮坂昌之、小安重夫、渋谷彰、菊谷仁、久保允人、齊藤隆、鳥山一、山本一彦

## ▼ 2010

14th International Congress of Immunology

2010年8月22日～8月27日

会長名 岸本忠三 (大阪大学)

会場 神戸ポートピアホテル、神戸国際展示場

## 運営メンバー



▲岸本忠三 14th ICI 会長



▲本庶佑副会長



▲笹月健彦副会長



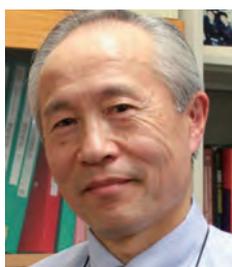
▲谷口克副会長



▲高津聖志副会長



▲平野俊夫副会長



▲宮坂昌之事務局長



▲審良静男プログラム委員長



▲齊藤隆プログラム副委員長



▲山本一彦財務委員長 (歳入)



▲小安重夫財務委員長 (歳出)



▲烏山一総務委員長



▲高浜洋介広報委員長



▲清野宏企画委員長



▲松島綱治サテライトシンポジウム委員長



▲菊谷仁出版委員長



▲中山俊憲旅行渉外委員長



▲吉崎和幸リスクマネージメント委員長

会場



▲神戸国際展示場



▲神戸ポートピアホテル



▲案内



▲案内



▲ポートライナーの無料乗車券



▲受付



▲救護体制 吉崎和幸

開会式



▲受付



▲司会 清野宏



▲岸本忠三 14th ICI 会長 開会式挨拶



▲ Peter Doherty IUIS 会長挨拶



▲唐木秀明 日本学術会議副会長挨拶



▲基調講演座長 岸本忠三



▲基調講演 David Baltimore



▲金聖響氏指揮による大阪フィルハーモニーの演奏



▲開会式で配布されたプログラム

ウェルカムレセプション



▲矢田立郎神戸市長挨拶



▲レセプションスポンサー eBioscience CEO Todd Nelson 氏挨拶



▲鏡割り David Baltimore、Mohamed Daha IUIS 事務局長、唐木秀明、矢田立郎、岸本忠三、Fritz Melchers、Peter Doherty



▲鏡割り 右から Luciano Adorini、Nicholas King 会計幹事、稲葉力ヨ



▲笹月健彦 14th ICI 副会長による乾杯の音頭



▲乾杯後 山本一彦、平野俊夫、高津聖志、本庶佑、Stefan Kaufmann、eBioscience CEO Todd Nelson



▲乾杯後 Peter Doherty、David Baltimore、Fritz Melchers



▲レセプション



▲レセプション



▲倭太鼓飛龍の演奏

抄録集とプログラム集



▲抄録集



▲プログラム集



▲岸本忠三揮毫

## マスターレクチャー



▲ Tadamitsu Kishimoto: IL-6: Back to the future.



▲ Jules Hoffmann: Innate immunity in Drosophila.



▲ Max Cooper: Evolution of alternative adaptive immune systems



▲ Klas Kärre: Education of natural killer (NK) cells by host MHC class I molecules



▲ William Paul: CD4 T cells: Fates and functions



▲ Philippa Marrack: The obsession of T cell receptors with MHC



▲ Fritz Melchers: Paradigms of B lymphocyte development, repertoire selection and central tolerance



▲ Tak Mak: Lymphocyte homeostasis: To kill or be killed



▲ Tasuku Honjo: Topoisomerase 1 involvement in AID-induced S region cleavage and CSR



▲ Klaus Rajewsky: B-cell maintenance, response and surveillance



▲ Charles Dinarello: Interleukin-1  $\beta$  and the treatment of auto-inflammatory diseases



▲ Stefan Kaufmann: Learning from life: Guidelines for immunologic control of the most successful bacterial pathogen on our globe



▲ Emil Unanue: The unsolved mysteries of antigen presentation



▲ Irving Weissman: Normal & neoplastic stem cell

シンポジウムとワークショップ



▲シンポジウム 1 段目左：Carola Vinuesa，右：菊谷仁.2 段目右：東みゆき、4 段目左：竹田潔、右：Fiona Powrie



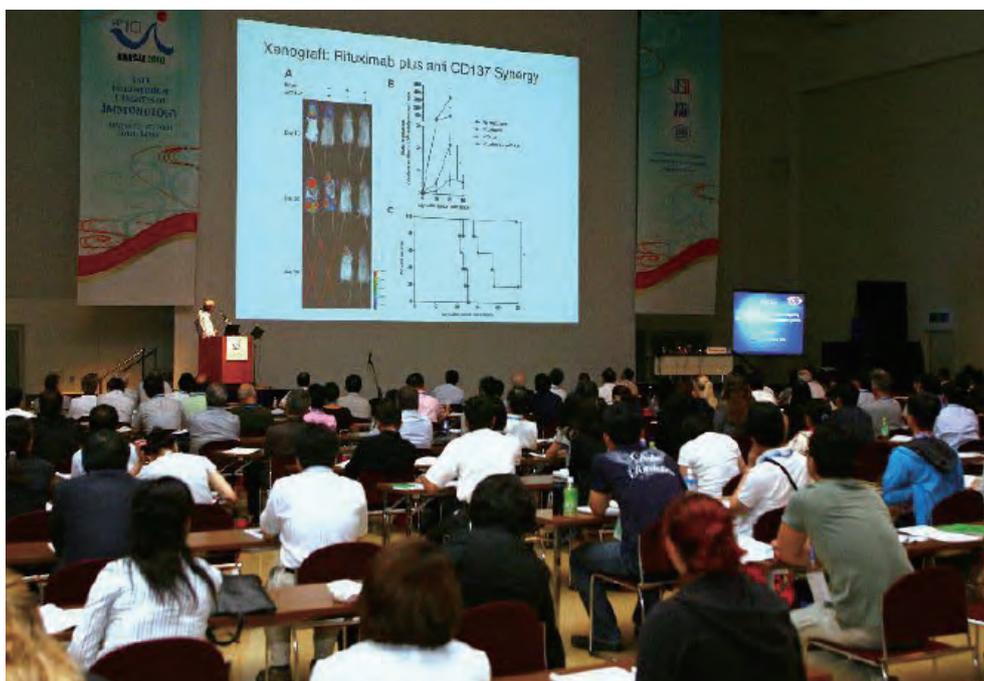
▲ワークショップ



▲ワークショップ



▲国際シンポジウム「インフルエンザと口蹄疫」 Wayne Hein、Rafi Ahmed

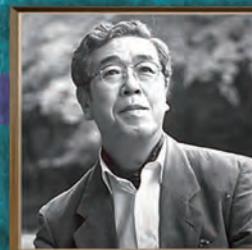


▲臨床医のための特別シンポジウム

*Lunchtime Special Session (Chaired by Toshinori Nakayama)*  
*In memory of*  
*Prof. Tomio Tada*  
*Sponsored by International Immunology*

Date: **Tuesday, Aug. 24, 2010** (12:20 - 13:20 during 14th ICI)

Place: **The Kobe Portopia Hotel, Room "Waraku"** (Main building B1F)  
 (<http://www.portopia.co.jp/en/>)



Invited Speakers:

Fred Alt  
 Max Cooper  
 Klaus Rajewsky  
 Lee Herzenberg  
 Fritz Melchers  
 Sonoko Habu  
 Miki Matoba  
 Masaru Taniguchi

A lunch box  
 will be served  
 for attendants

Admission Free  
 No Registration  
 Required

Sponsored by: International Immunology  
 Oxford University Press  
 Bay Bioscience Co., Ltd.

Enquiries to  
 Dr. Masaru Taniguchi  
 RCAI, RIKEN Research Center for Allergy and Immunology  
 Tel: 045-503-7002, e-mail: [taniguti@rcai.riken.jp](mailto:taniguti@rcai.riken.jp)  
 Dr. Toshi Nakayama  
 Graduate School of Medicine, Chiba University  
 Tel: 043-226-2185, e-mail: [tnakayama@faculty.chiba-u.jp](mailto:tnakayama@faculty.chiba-u.jp)

▲ In Memory of Prof. Tomio Tada (この年に亡くなられた多田富雄先生を偲んで追悼セッションが開催された)

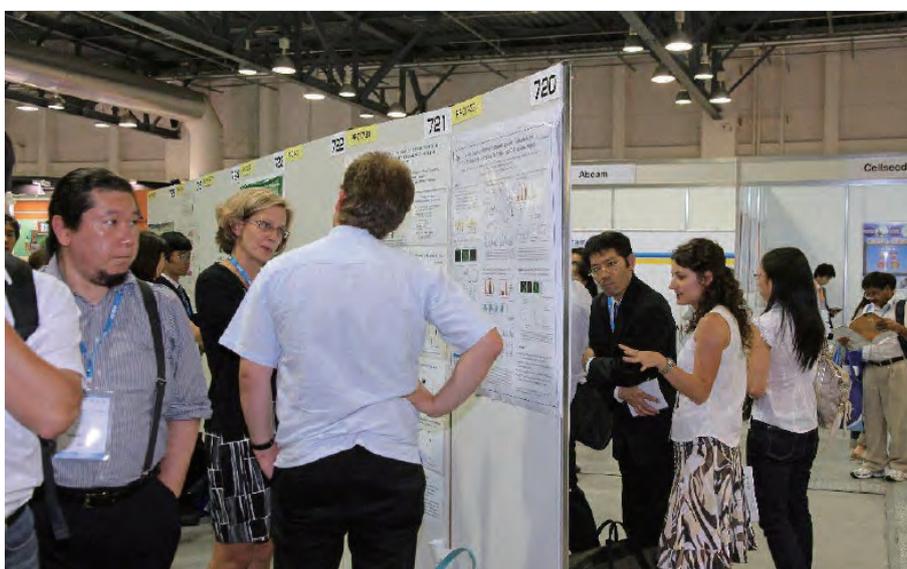
ポスターセッション



▲ポスターセッション



▲ポスターセッション



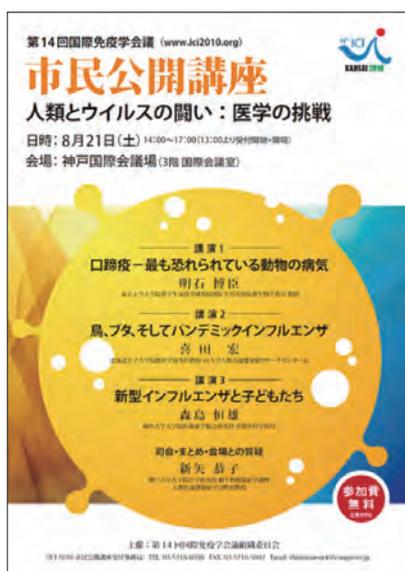
▲ポスターセッション

## アドホック・セッション “Human Immunology Initiative”



▲Human Immunology Initiative

## 市民公開講座



▲市民公開講座ポスター

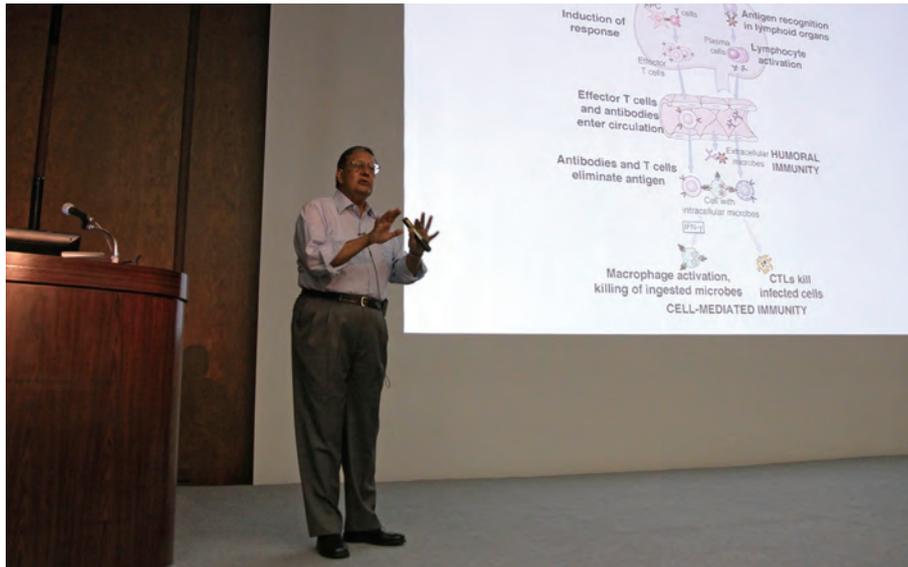


▲市民公開講座



▲市民公開講座

## 教育コース Immunology Update



▲ Immunology Update Abul K. Abaas



▲資料集と受講証

## サテライトシンポジウム



▲ 4つのサテライトシンポジウムの開催

日本免疫学展示



▲日本免疫学会展示



▲日本免疫学会展示



▲日本免疫学会展示

日本文化プログラム



▲書道



▲生花



▲着付け



▲折り紙



▲和風喫茶

会長招宴 @ ホテルオークラ (8月24日)



▲岸本忠三 14th ICI 会長挨拶



▲Stefan Kaufmann IUIS 会長挨拶



▲乾杯 本庶佑副会長



▲司会 宮坂昌之



▲歓談



▲歓談



▲今藤美紗緒氏によるスーパー三味線



▲宮川町の舞妓、芸妓の踊り

ワークショップ座長招待の夕べ @ ミント神戸 (8月24日)



▲ワークショップ座長招待の夕べ

オフィシャルパーティ (8月26日)



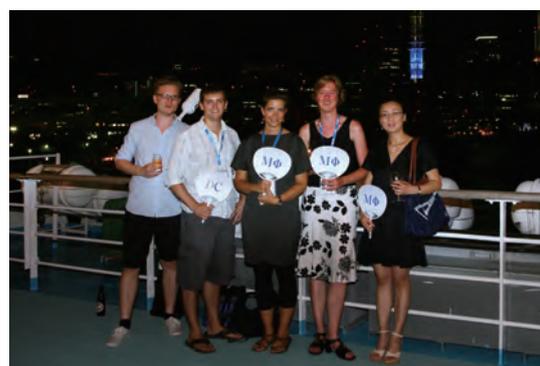
▲神戸湾クルーズ ルミナス神戸2



▲ルミナス神戸2



▲旅客ターミナル



▲甲板



▲司会 熊ノ郷淳



▲食事風景 中央 審良静男、吉崎和幸



▲食事風景 左端 Janko Nikolic-Zugich、右端稲葉カヨ



▲バンド「ポジティブセレクション」によるジャズの演奏  
Rolland Scollay、山村隆、Willem van Ewijk



▲歓談



▲歓談 小安重夫、宮坂昌之、岸本忠三



▲神戸の夜景



▲お土産 宮坂昌之

メリケンパークパーティ (8月26日)



▲メリケンパークパーティー



▲屋台



▲徳島から参加の阿波踊り



▲阿波踊りで盛り上がる会場



▲阿波踊りで盛り上がる会場



▲阿波踊りで盛り上がる会場



▲ロックバンドネガティブセレクションの演奏



▲ボーカル 大野博司



▲ギター 河本宏



▲ギター 石戸聡



▲ベース 高浜洋介



▲ドラム 北村俊雄



▲フィナーレの花火



▲レーザー光線ショー



▲レーザー光線ショー

閉会式



▲司会 清野宏企画委員長



▲Stefan Kaufmann IUIS 会長挨拶



▲Luciano Adorini (次回開催地ローマを代表して)



▲事務局長から御礼の言葉 宮坂昌之



▲記念撮影



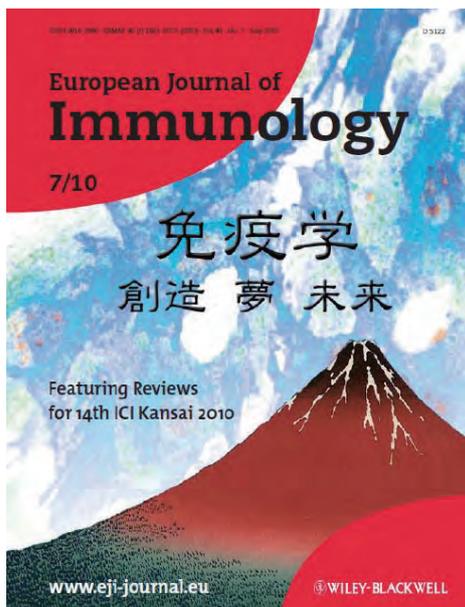
▲ 14th ICI の参加証



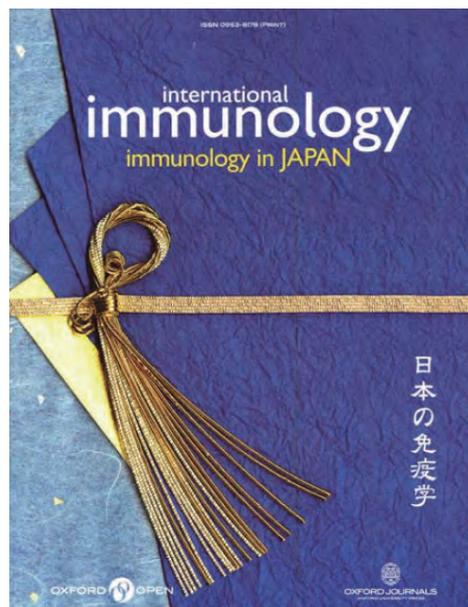
▲ 14th ICI コングレ



▲大阪大学事務局の小峰美由紀、師井悦子、山下志内



▲ Eur. J. Immunol. の 14th ICI Kansai 2010 特集



▲ Int. Immunol. の 14th ICI 特集

**神戸で最大級国際会議**  
 5000人参加 免疫学会 経済効果は10億円  
 8月開催

神戸市で最大級と目されている、08年以降の件が約10億円の経済効果を生むと見込まれる。免疫学会が2010年8月に神戸市で開かれる。神戸市は経済効果も神戸市外郭団体・神戸国際観光コンベンション協会は17日、市内の人工島ポートアイランドにある神戸国際展示場や神戸ポートピアホテルなどで「国際免疫学会」が22日から27日まで開かれると発表した。同会議が日本で開かれるのは1983年以来、2回目。世界約70カ国から海外研究者ら約3300人が参加する大型国際会議で、海外からの参加者の数では

神戸市で最大級と目されている、08年以降の件が約10億円の経済効果を生むと見込まれる。免疫学会が2010年8月に神戸市で開かれる。神戸市は経済効果も神戸市外郭団体・神戸国際観光コンベンション協会は17日、市内の人工島ポートアイランドにある神戸国際展示場や神戸ポートピアホテルなどで「国際免疫学会」が22日から27日まで開かれると発表した。同会議が日本で開かれるのは1983年以来、2回目。世界約70カ国から海外研究者ら約3300人が参加する大型国際会議で、海外からの参加者の数では

▲ 2010年1月3日神戸新聞朝刊

**国内今年最大級。神戸で国際会議**  
 22日から 免疫学会  
 神戸市の外郭団体、神戸国際観光コンベンション協会は17日、市内の人工島ポートアイランドにある神戸国際展示場や神戸ポートピアホテルなどで「国際免疫学会」が22日から27日まで開かれると発表した。同会議が日本で開かれるのは1983年以来、2回目。世界約70カ国から海外研究者ら約3300人が参加する大型国際会議で、海外からの参加者の数では

今年国内で開かれる国際会議の中で最大という。

▲ 2010年8月18日日本経済新聞朝刊

## 神戸で22日「国際免疫学会」開幕

# 75カ国から6000人参加

### がんりウマチ 最新の治療法発表

参加者のうち海外の研究者は約3000人。海分野で最も歴史がある国際会議「国際免疫学会」外から30人以上を集めて、今回14回目。日本会議（日本免疫学会）は国際会議が神戸で開催されるのは、国際糖尿病学会と主催が27日、神戸の国際会議場であった1994年11月、神戸中央区の神戸国際会議場として開かれる。が、月以來で規模は過去最大。紀における免疫学の最新治療法やリウマチ治療など最新の研究成果が発表される。

1971年に始まり「減をきし」。22日は

「国際免疫学会」最新の研究成果が発表される。神戸市中央区の神戸国際会議場にて開催される。午後5時からの開会式で、1975年にノーベル賞を受賞した、米カリフォルニア工科大学のデビッド・バルティモア教授が「マイクログリアと免疫システム」について講演する。最新のがん免疫治療法やリウマチなどの最新治療法について報告がある。

（金井恒幸）

▲ 8月18日神戸新聞朝刊

## 神戸で国際免疫学会

### 最新の成果報告

75カ国参加 27日まで

「国際免疫学会」最新の研究成果が発表される。神戸市中央区の神戸国際会議場にて開催される。午後5時からの開会式で、1975年にノーベル賞を受賞した、米カリフォルニア工科大学のデビッド・バルティモア教授が「マイクログリアと免疫システム」について講演する。最新のがん免疫治療法やリウマチなどの最新治療法について報告がある。

（金井恒幸）



講演するデビッド・バルティモア教授＝22日午後、神戸市中央区港島中町6、神戸ポートピアホテル

▲ 8月23日神戸新聞朝刊

14th ICIにおける IUIS 総会で小安重夫が理事に選ばれた（2010年 - 2016年）

期間中 FIMSA 理事会が開催された。



▲理事会 Guna Karupiah（オーストラリア）、Pak Leong Lim（香港）、小安重夫（日本、会計幹事）、Nicholas King（オーストラリア、会長）、Nageshwar Rao（インド）、Surasakdi Wongratnacheewin（タイ）、高浜洋介（日本）、Xuetao Cao（中国、副会長）、Gregory Tsay（台湾）

## ▼ 2011

FIMSA 理事会が上海で開催された（12月8日）



▲理事会 高浜洋介（日本）、Surasakdi Wongratanacheewin（タイ）、Paola Castagnoli（シンガポール）、Nicholas King（会長、オーストラリア）、小安重夫（会計幹事、日本）、Xuetao Cao（副会長、中国）、Guna Karupiah（オーストラリア）、Gregory Tsay（副会長、台湾）

## ▼ 2012

第5回 FIMSA Congress がニューデリーで開催された（3月14日～17日）



▲理事会メンバーとトラベルアワードの受賞者の集合写真

## ▼ 2015

第6回 FIMSA Congress (シンガポール) で FIMSA 理事会が開かれ、小安重夫が会長に、高浜洋介が会計幹事に選ばれた (2016年 - 2019年)。



▲理事会 右から Sunil Arora (インド)、小安重夫 (日本)、Hun-Taeg Chung (韓国)、Gregory Tsay (副会長、台湾)、Nicholas King (オーストラリア)、Xuetao Cao (会長、中国)、Zhigang Tian (中国)、Liwei Lu (香港)、Alan Baxter (オーストラリア)、Siew Cheng Wong (シンガポール)

## ▼ 2016

17th International Congress of Immunology における IUIS 総会で高浜洋介が IUIS 理事に選ばれた (2016年 - 2019年)。期間内に FIMSA 理事会が開催された。

FIMSA 理事会で高浜会計幹事からトラベルアワードが贈呈された。



▲トラベルアワードの贈呈

## ▼ 2018

第7回 FIMSA Congress がバンコクで開催され（10月10日～13日）、合わせて FIMSA 理事会が開催された。



▲ FIMSA 理事会 Tanapat Palaga (タイ)、Sin-Hyeog Im (韓国、次期 Congress の委員)、竹内理 (日本)、Liwei Lu (香港)、Chang-Duk Jun (韓国、Hun-Taeg Chung の代理)、Amit Awasthi (インド)、Laura Mackay (次期会長、オーストラリア)、小安重夫 (会長、日本)、Xuetao Cao (事務局長、中国)、Gregory Tsay (副会長、台湾)、Zhigang Tian (中国)、高浜洋介 (会計幹事、日本)、竹田潔 (日本)、Shie-Liang Hsieh (台湾)

# ノーベル生理学・医学賞

▼1987

利根川進がノーベル生理学・医学賞を受賞した。



▲授賞式



▲受賞の様子



▲授賞式 ご家族で



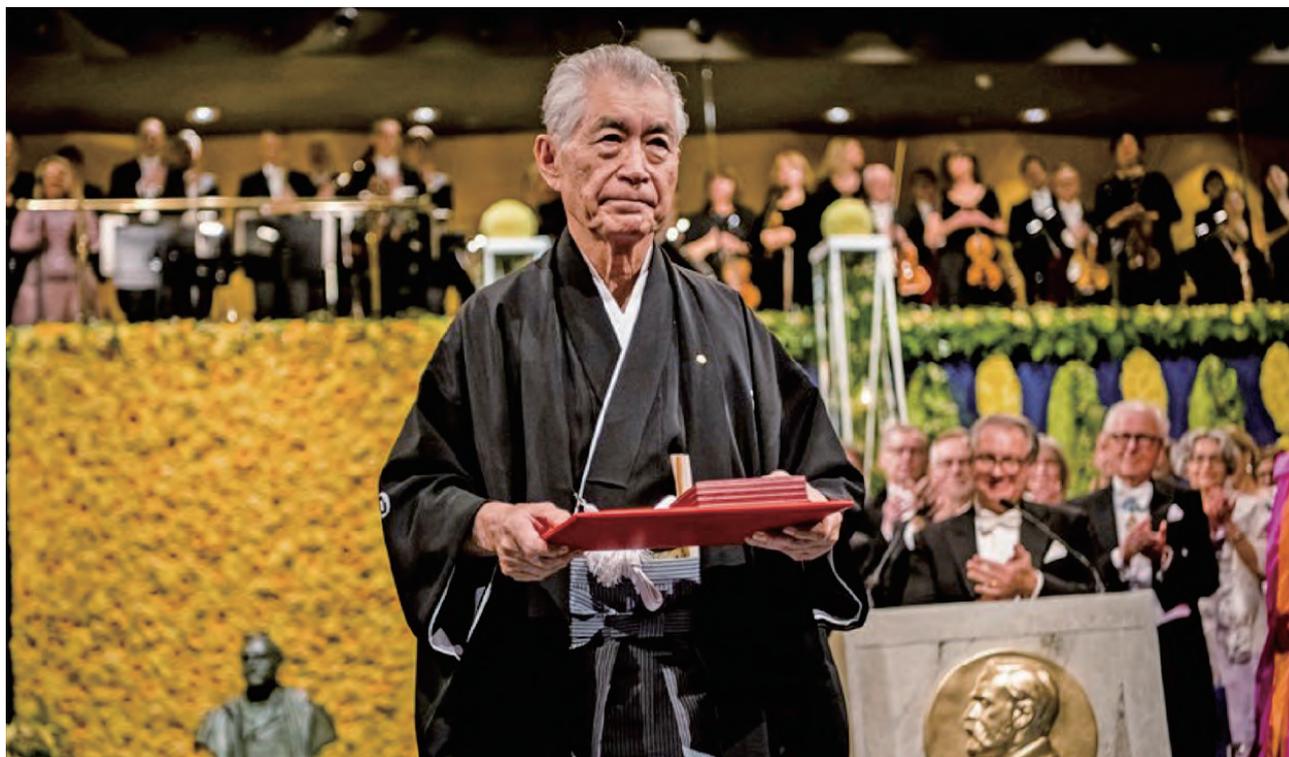
▲ポートレイト



▲実験風景

▼2018

本庶佑がノーベル生理学・医学賞を受賞した。



▲授賞式



▲披露



▲披露



▲有志竟成

# 学会の歴史

## ▼黎明期

1965年頃に補体の研究会以外は、全国的な規模の免疫関連の研究会はなかった。1960年後半から、大阪大学関係者を中心とした免疫化学研究会（代表：北川正保、大阪大学癌研究所）がスタートした。免疫化学の分野では、石坂公成（当時、ジョンズ・ホプキンス大学医学部教授、1966年にIgEを発見）、八木康夫（元日本ロシュ研究所 所長）、曾良忠雄（東京大学）、天野恒久（大阪大学微生物病研究所）、尾上薫（当時、大阪大学医学部第3内科、1968年から九州大学歯学部）らが研究を牽引し、抗原、抗体に関する研究の情報交換を行なった。



▲1967年1月26～28日、日米免疫科学ミーティング（ホノルル）  
Immunoglobulin production by colonies, cultured cell etc. With special reference to the homogeneity of immunoglobulins production  
前列左より石坂公成、一人おいて北川正保、中村、Leon Wofsy、天野恒久、Henry G. Kunkel、右田俊介、Henry Metzger、Sidney E. Grossber、William J. Dreyer、八木康夫 後列左より3人目 尾上薫、6人目 山村雄一、8人目 David Pressman



▲1967年1月日米免疫科学ミーティング William J Dreyer、David Pressman、A.L.グロスバーク、尾上薫 山村雄一



▲日米免疫科学ミーティング 八木康夫、石坂公成、尾上薫

同時期に京都大学関係者を中心として、細胞生物学に焦点をあてた免疫生物学シンポジウム、団体として免疫生物学研究会が活動を開始した（代表：岡田節人、京都大学理学部、1967年以降は村松繁）。

1967年に、両研究会がそれぞれ第一回のシンポジウムを開催し、二回目（1968年、東京大学医科学研究所）以降は両シンポジウムが連携して活動するようになった（1969年、第三回、大阪府医師会館）。

1968年頃に、カナダのCinader B.、米国のLandy M. が中心になって国際免疫学会連合（International Union of Immunological Societies; IUIS）の設立を進めており、日本もそれに加わるべく日本免疫学会設立の機運が高まった。

1970年に、免疫化学シンポジウム、免疫生物学シンポジウムと、早くにグループを作っていた補体研究シンポジウムの3研究会を母体として学会を作る案がまとまり、第四回免疫化学・生物学シンポジウム（世話人 伊藤洋平、愛知県がんセンター）において日本免疫学会の発会式が行われた。会長は選挙で選ぶという当時としては画期的な方式が採用され、山村雄一（大阪大学医学部第三内科）が初代会長として選出された。学会発足時の執行部は以下の様である。

### （初代執行部）

会長 山村雄一

運営委員 天野恒久、尾上薫、北川正保、西岡久壽弥、花岡正男、浜島義博、松橋直、右田俊介、三橋進、村松繁、山本正、吉田孝人

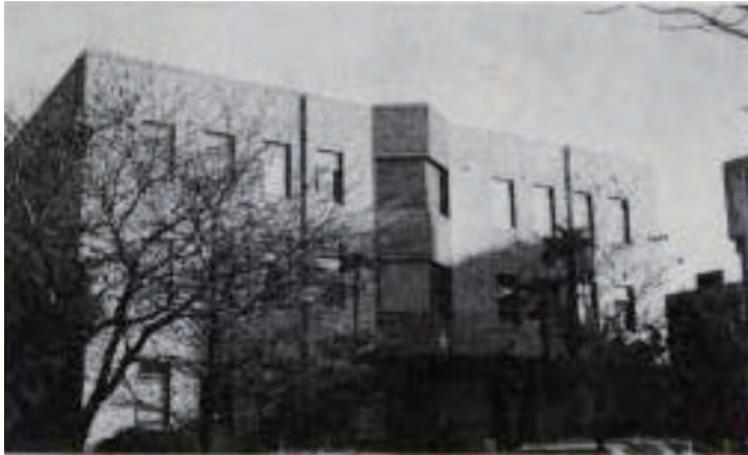
監事 牛場大蔵、武谷健二

庶務幹事 花岡正男

会計幹事 北川正保

## ▼1971

日本免疫学会事務局が京都大学ウイルス研究所 花岡正男（京都大学ウイルス研究所）の元に設置された。



▲旧ウイルス研究所

## ▼1976

日本免疫学会が日本医学会に加盟した。

## ▼1985

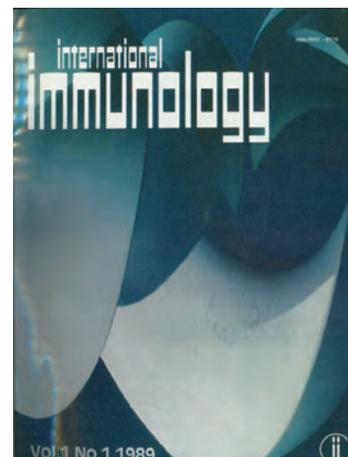
日本免疫学会事務局が、京都大学理学部村松繁の研究室に設置された。



▲村松繁

## ▼1989

日本免疫学会と Oxford University Press との共同発行で、International Immunology が創刊された。初代 Editor-in-Chief には多田富雄が就任した。



▲ International Immunology 創刊号

## ▼1993

JSI Newsletter が創刊された。



▲ JSI Newsletter 創刊号表紙

## ▼1995

免疫学会事務局は、日本学会事務センターに引き継がれた。



▲日本学会事務センター

## ▼2002

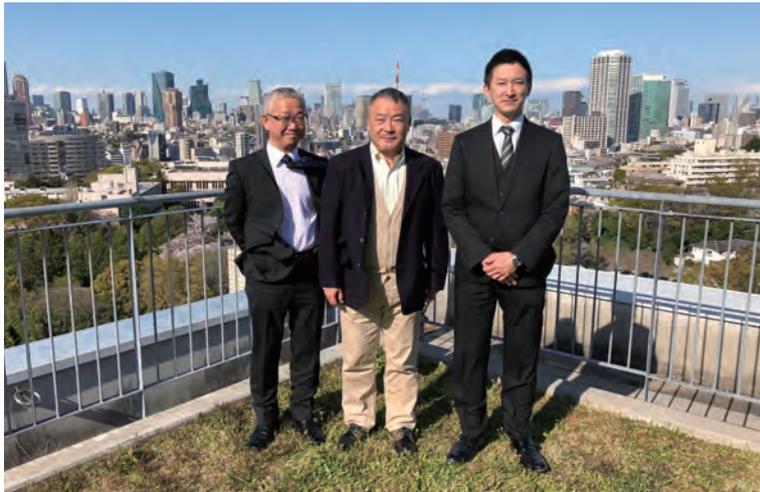
International Immunology の第 2 代 Editor-in-Chief に岸本忠三が就任した。



▲岸本忠三

## ▼2005

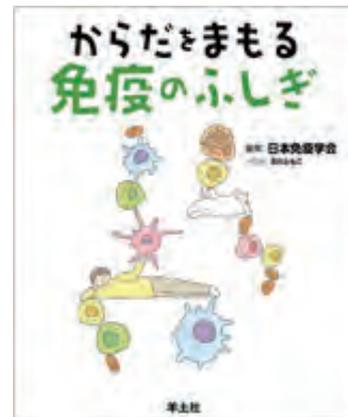
日本免疫学会が学会事務委託をしていた学会事務センターが破産したため、この年 NPO 法人への移行と独自の事務局保有を行なった。



▲事務局集合写真 左から外山謙治、浅井保至、織田純平

## ▼2008

日本免疫学会編集「からだをまもる免疫のふしぎ」刊行



▲からだをまもる免疫のふしぎ

## ▼2011

岸本忠三先生は、日本の免疫学の将来を担う若手研究者の育成を目的に、抗 IL-6 受容体抗体治療薬のロイヤリティーの一部を日本免疫学会にご寄付され、岸本忠三・若手研究者支援事業が開始され、博士仮定学生支援と免疫学若手研究者自立支援を行う「きぼう」プロジェクトと Tadamitsu Kishimoto International Travel Award が創設された。



▲岸本忠三

## ▼2018

International Immunology の第 3 代 Editor-in-Chief に審良静男が就任した。



▲審良静男

## 編集後記

広報委員長 植松智



▲植松智

日本免疫学会 50 周年の節目として、その活動をアルバムとして残したいという審良静男先生の発案でこの企画は始まりました。写真だけで振り返るといのは企画としては陳腐ではないか、その様な厳しいご意見もありました。しかしながら、今、過去の貴重な資料を収集、整理をしてデジタル媒体として残しておかないと未来永劫その軌跡を残すことは出来ないという審良先生の熱い思いに動かされ、広報委員会が請け負うこととなりました。黎明期の写真は、事務局にも残っておらず、また当時の先生方の教室も 2 代以上教授が代わられていて直ぐには資料が出てこない状況でした。また、2000 年前後になると学術集会をコングレに外部委託する様になり、外注ゆえにオリジナルの写真が残っていない時期もありました。その後、デジカメの普及によって資料が爆発的に増えるのですが、ピントの合っていない写真も含め資料整理に膨大な時間のかかることが予想されました。その様な状況におきまして、広報委員が一丸となり、また各地域、各大学におられる学会員の先生方をお願いをし、各自保存をされていた貴重なお写真、退職記念誌、当時の資料等を可能な限り集めて頂くことが出来ました。絶望的な気持ちで資料収集を始めましたが、会員同志のネットワークの強さに本当に勇気づけられ、助けて頂きました。また、写真の整理に関しましては、事務局の多大なる貢献があり、通常業務の合間に膨大な資料の整理をお手伝い頂きました。一次選定された写真に関しまして、ご多忙の小安理事長が全ての写真に目を通され、ご確認を頂きました。本書の敢行にご尽力下さいました全ての方々へ心より御礼を申し上げます。

会員の皆様には、写真を見て懐かしんで頂いたり、また特に若い会員の方には学会の歴史を知って頂く機会となれば幸いです。私自身も若い頃に参加していた学術集会の写真を見て、年一回仲間と会い、発表し、新しいことを知り、また翌年に向けて頑張ろうと決意していた当時の気持ちが蘇りました。現在、新型コロナウイルスの蔓延により学術集会、そして学会のあり方自体も変容しております。コミュニティは、時代、状況によって変化をしていくことは仕方がないことですが、その様な厳しい状況におきましても日本免疫学会が、免疫学に興味を持つ人々が集い、交流し、人類に貢献出来る研究成果を出すための重要な場であり続けて欲しいと心より祈念しております。

### 本書作成にご協力くださった方（敬称略）

赤池孝章、審良静男、石井直人、石原克彦、稲葉カヨ、植松智、栄川健、樗木俊聡、岡田峰陽、小笠原康悦、奥村康、梶島健治、河村好章、河本宏、菊地浩吉、岸本忠三、木下タロウ、清野宏、熊ノ郷淳、久保允人、黒崎知博、小安重夫、小柳義夫、齊藤隆、坂口志文、坂元亨宇、笹月健彦、佐藤荘、澤新一郎、渋谷彰、菅村和夫、菅原俊二、鈴木一博、清野研一郎、反町典子、高岡晃教、高津聖志、高柳広、竹内理、竹田和由、竹田潔、多田式江、谷口克、茶本健司、利根川進、中山俊憲、長谷耕二、花岡正男、華山力成、濱岡利之、濱崎洋子、平野俊夫、藤尾圭志、穂積勝人、堀昌平、本庶佑、本田賢也、本田哲也、前田和彦、松田正、三宅健介、三宅幸子、宮坂昌之、村上正晃、森澤雄司、八木田秀雄、山崎晶、山崎小百合、山下政克、吉田孝人、吉村昭彦、山本一彦、吉田裕樹、吉成真由美、淀井淳司、渡邊武